(三)左の如く省約して之が思想を言顯ゝさゞ如何

イエス譬喩を以て曰く牧羊者其牧する一百の羊のうち一を失ゝ之を見出すまでゝ他の九十九を野におきて迷へるものを搜索せん而して之を見出さゞ肩に負けて己が家に伴ひ飯へり隣人を呼んで共に喜ばん、斯の如く若し一人の罪人悔改めなゞ九十九人の義人よりゝ寧ろ天に於て喜あらん

(四)學生之が宗教的教訓を言顯ゝし得ん

其三　(十五〇八―十)

(一)之が主意を「失ゝれたる貨幣」と云ゝぶ如何

(二)(一)"ten pieces"「十枚」(ハ)日々の賃銀にして恐くゝ之れ全く借財に拂ふものならんか或ゝ(ろ)婦人の好める裝飾なるか

(二)"light a lamp"「登火を燃す」此家にゝ窓なかりき　(三)"lost"「失ゝんに」(ハ)彼女ゝ之を或目的に用ゐんとして能ざりし也

(ろ)稅吏及び罪人ゝ其まゝの有樣にてゝ神に用なきもの也

(三)之が最も大切なる教訓ゝ神ゝ罪惡に沈淪せる民を用ゐる能ゝず彼等ゝ唯悔改めてイエスに飯依するに於て始めて神の國に用ゐらるゝものなること是也

其四　(十五〇十一―十六)

(一)之が全節(十一―卅二)の主意ゝ「失ゝれたる子」にして其部分の主意ゝ「放蕩息子」にあらずや

(二)學生宜しく其裨益ありと認むる註釋書字書等の補助に藉りて左の語句を考究すべし　(一)"the portion"「部分」(二)"wasted

his substance"「その產を耗せり」稅吏及び罪人に對しての直言

(三)"husks"「豆莢」何人も之を與へざりき

(三)之が思想を左の如く省約して言顯わすべし如何

二子中其若き者父に請ひて財產を分與せられ之を携へ遠國に行きて浪費せり、一文も殘らず消費して飢餓に迫りしかば豕を牧ふ野にゆきて豕の食する豆莢を食ふの止むる得ざる塲合に立到りぬ而して之れすら得る能わざりき

(四)罪惡的生活の道行及び其末路わ明白ゐして說くを要せず

其五　(十五〇十七—廿四)

(一)重なる主意わ「失われたる子」にして亦「悔改めたる子」と云ふを得ん

(二)考究すべき大切なる語句わ左の如し　(一)"came to himself"「自ら省みるに至りし時」彼わ其良心に立かへれり　(二)"father"「父よ」イエスわ進んでパリサイ人に確かむるに神わ爾等が言ふ所の此名(父)を受容れ給わんことを以てせり　(三)"make merry"「樂まん」パリサイ人わ之をなすべき筈也　(四)"for, etc."「何となれば(和譯にわ此語を畧せり)廿二、廿三節の命令の理由にして即子が死より復生したるが故也

(三)學生宜しく是等の節の思想を言顯わすべし

(四)凡ろ感ずべきものゝうちに罪惡を悔改めたる子に對して神が父たる愛を顯わすとより感ずべきものあらんや

其六　(十五〇廿五—卅二)

(一)學生之が主意を考定せよ

(二) (一)"elder son"「兄」パリサイ人學者及び彼等の行爲を學ぶ凡ての者を代表す　(二)"serve thee"「爾に事へて」パリサイ人が神に對する立場の特質　(三)"this thy son"「この爾が子」(い)兄弟にあらず　(ろ)パリサイ人ハ兄弟の關係を識らざりき　(は)斯く話したる兄の權利　(四)"is thine"「爾のもの也」パリサイ人の名譽ある地位に就てイエスの承認　太廿三〇二を參考せよ

(五)"It was meet"「當然の事也」(い)父の保護　(ろ)此に譬喩の終を告げたる意味即ち慈愛、審判の猶豫、彼等の立場を改めしむる說諭是也

(三)是等の節に含有せる意味ハ左の如く言ふを得ん

兄野より飯へり來りて父及び家僕等が弟の飯宅を喜びあへるとを一人の僕に聞き怒りて家に入らず而して父の勸告に答へて我、未だ父の命に背きしとなく善く事へしに係らず今飯宅せし放蕩子になされたるが如き優待を曾て我になさずしとをつぶやけり父即ち答へて曰く子よ今斯く喜ぶハ當然なり何となれバ爾の失ハれたる弟ハ恰も死より甦りしが如く飯へり來りたれバなりと

(四)之が宗教的思想ハ私慾にして不信心なる者ハ神の愛に同情を表する能ハず之に反して無宿無賴の罪人と雖も一旦悔改むるときハ豊かに神の愛に泳浴するを得るとに在て存す

(二)　材料の類別

第一　本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含有せる事柄、左に掲ぐる材料の類別を熟讀して善く之に通ずるを要す

(一)新參の聽衆　恩惠の譬喩

(二)失はれたる羊

(三)失はれたる貨幣

(四)失はれたる子　(い)放蕩息子　(ろ)悔改めたる子　(は)兄

(二)總括、學生宜しく左に言顯いしたる總括を聖經の本文と比較して批評脩正すべし

多くの稅吏罪人來りてイエスの敎を聽かんとしけるとき學者パリサイ人等異議を容れしにイエス之に應ふるに(一)牧羊者い群羊をおいて一疋の迷へる羊を探索し遂に之を見出して家に伴ひ衆と共に喜びし事と　(二)一婦人其見失ひたる貨幣を綿密に尋ね之を見出せしとき衆と共に喜びし事とを以てして斯の如く失いれたる罪人が其本に復へるときい天に於て喜ある事を彼等の心に吹込めり　(三)父より分かれたる產を遠國に於て浪費したる子が非常の艱難に陷りたる後悔悟して父の許に立皈へりしに父い喜んで愛もて之を受容れたり然るに其兄之を怒りしかゞ父い弟が本心に復へり しい死より甦へれると一般、喜び祝ふの當然なることを諭告したるとに就て再び彼等に話し給へり

第二　材料の視察

(二百四十一)(十五〇一)之れガリラヤに於てなしたる經驗を再びしたる也而して恐くゝ前章の恩み豐かなる暗示に基きしものならん

(二百四十二)(十五〇三)イエスゝ稅吏及び罪人に對する自己の立場を辨護せり

(二百四十三)(十五〇五)牧羊者ゝ極めて疲勞したる羊に對して柔和なる愛情を懷きをりしものとして言顯ゝさる

(二百四十四)(十五〇六)イエスゝ自ら稅吏及び罪人を助けんと努むるとに於てパリサイ人學者等の情感を引かんとせり

(二百四十五)(十五〇七)神の前にゝ見捨てられたる一罪人の悔改めて本に復へるとゝ神と調和せる是等の義人の生活よりゝ寧ろ重要なるが如し

(引証)イエスゝ彼を攻擊せる人々と議論するに當り先づ彼等を以て其自信するが如く善良なる者と假定せり蓋し彼が言ふ所ゝ凡そ人ゝ稱讚せらるべき善良なる生活(縱令絕對的に善良ならざるも比較的に罪なき生活)を營める衆多の人々の義を見て喜べんよりゝ寧ろ著しき罪人の悔改めたることを喜ぶの當然なるべきを意味せり抑々悔改めたる罪人に對し一層深き愛情を表して喜ぶの人情に適へるとゝ迷へる羊を見出して喜べる牧羊者の心情に照らして明か也何物か之より好適例あらんや要するに之れ單に宇宙の大法を顯彰したる

ものにして凡そ失われたる者が見出されたるとき特殊の喜悦をなすべ實に此大法に從へるもの也"Bruce, *Parabolic Teaching*, p. 278. 此喜悦べ失われし者を得たるに因ると言ふのみにて甚だ不充分也中畧夫れ牧羊者べ其迷へる羊を見出せし時べ之を羊小屋に伴ひもせず亦群羊と共に置かずして己の家に伴ひたり惟ふに之れイエスに救べるべき否現に救べれたる罪人べ其以前の位置よりべ反て好き地位に置かるゝことを暗示するものゝ如し *Pulpit. Commentary*, II., 41.

(二百四十六)(十五〇八)此婦人の周到なる鑿穿の活ける有樣こそ眞の譬喩なれ

(引証)精神的に解釋する者べ曰く家べ即、教會、婦人べ即心に住める聖靈、貨幣べ即神の雛形を印したるも罪惡と汚穢のうちに在る人燈火べ即教會に因て顯べされたる聖靈の働、而して婦除するとべ即聖靈の働に因て一個人及び社會に惹起されたる鼓動にして塵埃を吹き起し世界を顚倒するとなりと然れども吾人を以て見れば斯る解釋べ自然に反するが如し *Bruce*, p. 278.

(二百四十七)(十五〇八、九)稅吏罪人べ前の譬喩に於てべ一疋の羊として而かも迷ひたる羊として認められたるが如く此にべ僅小の貨幣として而かも失われたる貨幣として喩へらる

(二百四十八)(十五〇十三—十六)イエスべ此實際の譬喩に因て稅吏及び罪人が神の正道と聖語より離れたる狀態を指示する

に躊躇せざりき彼ゝ彼等の罪を假借せず反て之を火を睹るが如く明かにせり

(二百四十九)(十五〇十七—廿四)悔改めたる子に對する父の配慮に關する此譬喩ゝ税吏及び罪人がイエスを信仰して其教訓を服膺し以て罪の悔改をなすに與つて大に力あるものたらずんゞあらず

(引証)此物語ゝ最初自ら義とするパリサイ人に話されしものなりと雖も口より口に傳播して税吏罪人のうちに聞ゆるに至りしや明かなり而して之れ遂に良心の掩蔽されたる凡ての者の守護札となり困頓疲弊せる無頼漢の心を引立てる特許狀となりぬ *Weiss*, II., p. 130.

(二百五十)(十五〇廿二—廿四)放蕩子の歸へり來りしとの特に喜ばれしゝ殆んど回復覺束なかりし位置より本に復へりしが故なり

(二百五十一)(十五〇廿五—卅二)兄に關する譬喩ゝパリサイ人をして當時見捨てられたる階級に對する彼等の不親切なる舉措に就て悔悟する所あらしめんが爲めなり而して能ふべくんゞ彼等を刺激して一層高尚にして適當なる感情をイエスに對して表さしめんが爲め也

第三　學課の題目

税吏及び罪人との關係に就てイエスの辨護(二百四十一—二百五十一を見よ)(一)是等の人々がイエスの許に集りたる場合を

再考せよ　(二)パリサイ人が取りし位置を臆へてガリラヤ傳道の秋おける同じ位置と比較せよ　(三)更に三譬喩に就て精細に考究せよ　(四)税吏及び罪人の有様に就てのイエスの概念を視よ　(い)彼等ゝ失われたる者(謂ふ所の有様ゝ回復の望みあるもの也 Bruce, *Par. Teach.*, p. 293)　(ろ)極めて疲勞したる痴呆の罪人即「羊」(は)神の用となる能ゝず而して神の世界に價なき者即「貨幣」貨幣の價ゝ所有者の目的とする所也中畧失ゝれたる人ゝ神の財のうちに在りて無なり零也 *Riddle*, p. 230)　(に)此息子の如き放佚なる惡漢　(ほ)然かも尚ほ子なり而して回復せらるべき者

(五)税吏及び罪人に就て　(い)より(ほ)に至るイエスの此概念ゝ議論の爲に彼等が懷けるパリサイ人的の思想を容れられたるものなるや否やを考へよ　(六)位置に就てのイエスの意見を臆へよ　(い)迷へる羊及び失ゝれたる貨幣を見出す事(イエスゝイスラエルの家の迷へる羊の憐れなる有様を見て自ら其牧羊者たらんと欲し給へり *Bruce*, p. 266 最も卑賤なる人間(失ゝれたる貨幣の如きもの)即社交上の位置ゝ殆んど之れなく品性甚だ下れる者と雖も其悔改ゝ神の御心を動かして厚き同情を引くもの也 *ibid*, p. 278　(ろ)「失ゝれたる子ゝ神の恩惠を蒙るべき者にして悔改めたる罪人ゝ天に於て喜べるゝ者也　(は)パリサイ人も亦喜べるべき筈の者なるに彼等ゝ一切の特權を有しおるにも係らず私慾深くして不親切なることを明かにせんが爲め也　(に)パリサイ人を導て税吏及び罪人に就て反省せしめんが爲め也

(ほ)稅吏及び罪人の心に吹込むに罪の赦免を願望し而して神を信奉せんとを以てせり

第四　宗教的教訓

學生宜しく「神の愛に就ての譬喩」を考ふべし、(一)神ハ其自由の恩惠心より失ハれたる罪人を尋ね給ふ　(二)神ハ人々を神の「失ハれたる子」として認められ而して其悔改むるときハ喜んで受容れ給ふ　(三)一層愛されたる「子」の私慾ハ親切に然しながら嚴格に神の譴責を免かれざる也

課程第卅五、第卅六　本文に關する譬喩及び諭告（路十六〇一―十七〇十）

注意　各課程を學ぶゐ當り其全節を讀誦して記事の重なる部分を視察するを要す

(一)　材料の考試

左の順序方法ハ常に此課程に必要なるが故に宜しく記憶すべし

(一)一節或ハ一句を讀んで其大体の主意を領する事(二)大切なる字句或ハ難解の字句を考究する事(三)一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の字句を考定し而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯ハす事(四)宗教上の教訓を學ぶ事

其一　(十六〇一―十三)

(二)之を讀で其主意を臆へよ　「不正の操會者の譬喩」

(三)大切或い難解の語句い左の如し、(一)"unto the disciples"「弟子等に曰ひけるい」惟ふに之れ十五〇一に云へる人々を特に指せしならん即ち是等の人々い十五章の譬喩に感動されてイエスに從ふに至りしもの也　(二)"what shall I do"「何を爲さん」彼い己の惡計を是認す　(三)三、四節い獨語を錄したるものにして四節に謂ふ所の「彼等」(或い是等)とい五節に所謂負債人也　(四)"write fifty"「五十と書けよ」操會者が採りし此方法い其工夫し得たりし夥多の方法の一なり而して之れ唯問接に彼を利しぬ　(五)"commended"「譽たり」即其狡智を譽めし也　(六)"sons of this world"「世の子輩」即現世の事に汲々として射利を圖る者　(七)"sons of the light"「光の子輩」即眞理を求めて道德的精神的生活を營む者　(八)"wiser"「……よりも巧み也」此世の力を一層巧に利用すると　(九)"and I say"「我なんぢらに告ん」即此大なる智慧を有することを考へて自ら奮起せよの意を含む　(十)"friends"「友」(い)貧人の眷顧　(ろ)天使の眷顧及び(は)神の愛顧を得るやうに金錢を用ゐるべし　(十一)"mammon of unrighteousness"「不義の財」(い)不義に依て得られ而して不義の性質を帶ぶる財貨　(ろ)稅吏い其財貨を斯の如くにして得ざりし乎　(十二)"very little"「最小事」此金錢の如きをいふ　(十三)"faithful in the unrighteous mammon"「不義の財を委さるゝに」即惡しき稅吏の如き爾等い不義によりて得たる此金錢を斯樣に用ゐしや　(十四)"true riches"「眞の財」即正眞なる品性

の發達を意味す　(十五)十二節ハ十一節に均し　(十六)"two masters"「二人の主人即爾等若し神を爾等の主人とせば金錢ハ之を爾等の奴僕となさゞるべからず

(三)是等の節を總括して云ハゞ左の如けん

イエス其弟子に謂て曰く主人の所有を消費したりとの謂を以て將に解雇せられんとしたる操會者ありしが巧に主人の負債者の負債を削り下げて彼等を義務の羈絆にからめ以て主人の賞讃を博しぬ蓋し此世の人ハ高尚なる道德的精神的生活を營める人々より機敏なれば也我、爾等に告げん爾等財貨を用ゐんにハ天國の愛顧を得るやうに此世に於て之を利用せよ、毫厘の小と雖も之を以て忠實に神に事ふれば之れ眞正の富を積むもの也と

(四)之が大敎訓ハ浮世の財寶を利用して幸福なる生活の資に供し而して品性を高むることに在て存す

其二　(十六〇十四—十八)

(一)之が主意ハパリサイ人の譴責にあらずや

(二)左の語を考究せよ、(一)"lovers of money"「貨幣を慾しがる」パリサイ人ハ實に慾深し而して彼等ハ金錢を正しく用ゐるの仁惠なることを說きたるイエスの諭告に胸を刺されたり　(二)"exalted among men"「人の崇ぶ所の者」即單に人間の標準を以て測るや　(三)"law and prophets"「律法と預言者」爾等ハ之に就て獨特の權利を有すと思惟すの意を含むと說く者あり　(四)

"the gospel, etc."「神の政の福音云々」神の政ハ此處に在りとの福音宣べ傳へらる而して稅吏と雖も否、凡ての者悉く之に入るを得る也（五）"but"「然れども」和譯にハ此語なし即縱令此福音ハ凡ての者に能く知られたりと雖も之が爲め過去の大道德法ハ弛緩せずして寧ろ强められき例へバ離緣の事の如き是也（十八節）要するにパリサイ人の犯し易き罪に對する律法ハ一層嚴格に施行するを可とすの意

（三）左に省約して言ふ所を批評せよ

慾深きパリサイ人イエスの諭告を聞きて嘲けりしかバイエス答へて曰く爾等が高しとする標準ハ神の前にハ虛僞にして且惡まるべきもの也爾等ハ最早宗敎的眞理の審判者にあらずヨハネの時より以來神の國ハ宣傳せられて凡ての者之に入るを得る也然かも神の國の律法ハ弛緩せずして寧ろ舊き律法の義務を强めぬ例へバ離緣の塲合の如き是也何とあれバ離緣せられたる者と結婚するハ即姦淫を行ふと一般なれバ也

（四）學生宜しく之が宗敎的敎訓を考定すべし

其三　（十六〇十九―卅一）

（一）之を讀で其主意を考へよ、「富人の譬喩とラザロ」

（二）（一）"now, etc."「或富る云々」（い）此譬喩ハ前のと連續せりや

（ろ）若し然らバ之れパリサイ人の貪慾に關してか（十四―十八）或ハ財貨を正しく用ゐるとの一般の主意に關してか（一―十

(二) "laid at his gate." 「富める人の門に置かれ」 (い)且つ富人と何等の關係ありしにや (ろ)富人い之を不親切に待遇せしや (三) "even the dogs" 「犬すらも」之れ (い)彼の難儀を一層甚だしくするとあるか (ろ)其難儀を慰むるとあるか (は)孰れにせよ其零落せる有樣見るが如し (四) "Abraham's bosom" 「アブラハムの懷」 (い)ユダヤ人い幸福の有樣を斯くいふ (ろ)イエスい死後の此有樣の事實に就て確証せるか (五) "this flame" 「火燄」之れ實際の事として考へらるべきか或い譬喩的なるか (六) "receivedst thy good things" 「爾の福を受け」平衡の法い必らず行いる (七) "great gulf fixed" 「動かざる大なる淵定れたり」即ち爾が求むることを爲すい出來得べからざる也 (八) "they will repent" 「悔改むるあらん」 (い)富人い今悔改めつゝありしや (ろ)之を奬厲したるい自然の感情ありしや (九) "if they hear not" 「若し聽かずば」即ち今い豐かに眞理を識るの好機會也而して彼等者し已に有ずる所のものに注意せずんば如何ある超自然的導者も以て彼等の私慾的生活を永久に改良し得ざるなり

(三)學生宜しく是等の節の思想を言顯いすべし

(四)夥多の教訓中重なるものい他人を助け益するとい永生を得る爲めの條件として最も必要あると是也

其四　(十七〇一—四)

(一)學生宜しく之を續で其主意を考定すべし

(二)左の語ハ考究するの價値あり　(一)"disciples"「弟子」之れ舊き者と新らしき者との併稱也　(二)"occasions of stumbling"「躓かさるゝ事」即二節に示されたるが如き事　(三)"these little ones"「小子」(い)新弟子の一人をいふ、已に信仰したる稅吏罪人ハ所謂小子なるか　(ろ)舊弟子ハ稅吏罪人と俱に在るを甘んせしや或ハ傲然高く自ら標置して之を蔑視せしや　(は)彼等ハ結局、心亂れ且怒るに至りしや　(四)"brother sin"「爾の兄弟罪を犯さゞ」(い)舊弟子か　(ろ)新弟子か　(は)彼等ハ凡て兄弟也

(五)"seven times"「七次」之れ實際的か譬喩的か

(三)左に言顯ハす所を批評せよ

イエス弟子に話すらく或者が他者を躓かすとあるや必せり之れ洵に禍なる哉新らしき弟子を躓かすより海中に沈めらるゝハ寧ろ其者の爲に宜し兄弟若し一日に七次罪を犯すとも之を寛容すべしと

(四)舊き弟子ハ若くして經驗少き兄弟を躓かすの恐れあり而して若き弟子ハ舊き兄弟に對して寛容の精神に乏しき恐れあり之れ双方共に反省すべき事にあらずや

其五　(十七〇五—十)

(一)之を讀で其主意を評せよ　「過度の勤勞についての譬喩」

(二)(一)"apostles"「使徒」彼等ハ十七〇一、二にいへる人々の精神と同情同感なりしや　(二)"faith"「信仰」何の信乎　(い)特に關係する所なく一般にいへる神を信ずるとか　(ろ)稅吏罪人を弟

子として之に處するイエスの方法を信ずるとか　(は)彼等ハ此寛容を實踐し而して十七〇一—四の罪を避け得ん爲に信を益されんとを求めしにや　(四)"but"「然れども(十七〇七)(和譯にハ此語なし)爾等ハ信仰を以て爾等をして一層寛容ならしめ進んで我が企圖に入らんと欲するの念を強めしむるに必要なりと思惟せるものゝ如し然れども今要せられたるものハ信仰にわらざるとを知れの意　(五)"come straightway"「亟かに來りて」即ち爾ハ爾の一日の働きを終りたれバの意　(六)"make ready.....and afterwards"「我夕食の爲に準備せよ……而して後云々」先づ此過度の勤勞を爲せの意　(七)"all the things commanded"「命ぜられし事をみな行したる時も我が要求し得る過度の勤勞すらもの意　(八)"unprofitable"「無益」　(ら)彼等ハ此勤勞を爲したれバとて毫も誇るべき所なし　(ろ)終まで耐忍ぶに非れバ　(は)而してキリスト信者として勤むべき他の凡ての事に於て忠實勤勉なるに非れバ益なきもの也　(に)要するに之れ彼等ハ彼等を救ひたる者の厚意に因て其僕たる者なれバ也

(三)學生宜しく是等の節に含まれたる思想を言顯すべし

(四)之が緊要なる教訓ハ我儕ハ神の僕なるが故に縱令過度の勤勞と雖もつぶやかず亦己の功を誇らずして欣んで出來得る限り何事をも爲さゞるべからざると是也

(二)　材料の類別

第一　本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含まれたる事柄、左の表を諳誦すべし

本分に關する譬喩及び諭告

(一)不正の操會者の譬喩

(二)パリサイ人の譴責せられたる事

(三)富人の譬喩とラザロ

(四)躓かす事ある場合

(五)過度の勤勞についての譬喩

(二)總括、學生宜しく己に與へられたる先例に倣ひて本文の事柄を總括すべし

第二　材料の視察

(二百五十二)(十六〇一)イエスの弟子なる稅吏の多くゝ正に此操會者と同じ地位に在りしならん而して多くの者の過去の有樣ゝ此の如く不正直ありしなるべし

(二百五十三)(十六〇一―七)イエスの時代に於て大なる會計を取扱ひたる方法ゝ此に明に說示せらる

(二百五十四)(十六〇八)此世の子輩が常に光の子輩に優る所ゝ事務に關して也

(二百五十五)(十六〇九―十三)此敎訓ゝ特に稅吏にして弟子となりたる者に與へられたるものゝありとせゞ則ち之れ彼等ゝ以前不義に因て得たる富を如何にして正しく用ゆべきやを敎へられたるものゝ如し

(引証)之れ富める税吏即ち以前歴制と邪曲とを行ひたるに因て其徳性を顚覆したる者に取りて最も適切なる教訓なりき彼等ハキリストに來りたる者なれバ新らしき生活を營み而して神の國の爲に其財貨を用ゐざるべからざりし也 Lindsay, p. 191. 彼等が今所持せる財貨ハ之を正しく用ゐざるべからざる責任あるもの也故に此点よりいハゞ之が所有權ハ彼等に在りと雖も實ハ複雑極まる生存競爭の社會に於て不知不識或ハ知て之を褫奪されたる者こそ眞の所有主なれ而して此教訓ハ亦財貨を無暗に濫費し若くハ私慾に供することを戒めたるものなりき Lindsay, p. 192.

(二百五十六)(十六〇一—八)イエスハ悔改めたる税吏及び罪人に向て戒飾したるものにして譬喩を彼等の境遇に適合せしめ以て彼等に反省を促せし也

(二百五十七)(十六〇十六)神の國ハ特權を有するパリサイ人に在るにあらずして反て凡ての者が之に入り得るやうに宣傳せられたり

(二百五十八)(十六〇十九、廿)此富人ハラザロが門に立ちし時之を助くるの好機會を失したるが故に誤てり

(引証)イエスハ富人の門に立てるラザロを現出し以て見逃すべからざる好機會の在ることを知らしめぬ、抑々ラザロハ視逃すべからざる緊急の好機會の表徴たるに過ぎざることを知ると同時に富人ハ其好機會に乘ずることを怠り易き者なることを知し

るべし Bruce, *Parabolic Teaching*. p. 386.

(二百五十九)(十六〇廿三—廿六)此富人ハ未來に朋友を得るやう此世に在て其富を利用せざりしが故に苦難に陷へれる也畢竟彼を陰府に入れしものハ不人情なりき

(二百六十)(十七〇廿七—卅一)舊約書ハ之を知て讀む者に人情と慈惠とを敎ふるに充分なるもの也蓋し之れ此敎訓の主意なるが如し

(引証)私慾的生活を營む者に在てハ無智文盲の謂を以て推諉となすを得ず要するに吾人ハ此富人が其兄弟の爲に要求した る所ハ間接に自己の爲の推諉なることを確認す Bruce, *Parabolic Teaching*, p. 395.

舊約書ハ凡ろ正義の念を懷ける者を嚮導して清廉なる生活を爲さしむるに足るものありき若しも之に依て清廉なる生活を爲し能ハざる者ハ他の方法に依るも到底好結果を見る能ハざる也 Bruce, *Parabolic Teaching* p. 397.

(二百六十一)(十七〇一—四)稅吏と罪人を受容れたる結果として最も緊要切迫の事が弟子の中に生じたるが如し

(二百六十二)(十七〇五、六)イエスハ使徒等をして凡ろ斯る大事の成され得るハ信仰を增加するに因るに在らずして既得の信仰を活用するに因ることを知得せしめんと欲し給へり

(引証)凡ろ人ハ己の信ずる所に堅立して働くに因て事を成し得る者也然るに不相應に己を疑ひて只管祈願に是れ依るの誤

謬に陷れるもの往々なしとせず *Plumptre.*, p. 279.
爾等ハ我が命ずる所の本分を守るを難んず之れ爾等が正に有すべき高尚なる信仰を未だ有せざるとを証するもの也蓋し斯る信仰の小量だも有したらんにハ自然界にハ全く出來得べからざるが如く見ゆる事を成し得べき也 *Riddle*, p. 251.
弟子等が其兄弟を赦さぬとの申譯として信仰の缺乏に假托するを見れバ彼等ハ殆んど信仰の何物たるを解せざりし也 *Lindsay*, p. 195.

(二百六十三)(十七〇七—十)此に神を嚴格に現出したるとハ感情的且實行的に私慾なる使徒等の心を刺激して改悛せしむる所の良藥たらずんバあらず彼等ハ宜しく眠を醒して其本に復へるべき也

第三　學課ハ題目

恩惠ハ譬喩に伴ふ教訓(二百五十二、二百五十五—二百六十三を見よ)(一)十五章の教訓を想起して新聽衆の中よりイエスの仲間に加へられたる者ありしとを考へよ　(二)斯る弟子に與へられたる教訓(十六〇一—十三)の組立の適切なるとを視よ　(い)稅吏及び罪人ハ富める事　(ろ)彼等の德義心ハ不義を行ふとに因て弱められたる事　(三)イエスの教訓ハ那邊に向けられたるや其點を臆へよ　(い)不正直に依て得たる富を正しく用ゐる事　(ろ)此を斯く正しく用ゐるとの絶對的必要(十六〇十九—卅一)

(四)十七〇一—四に教示されたるが如く弟子中に舊新の分立あ

りしならんと思ふる、其事に就て考へよ　(五)(い)十七〇一、五に示されたるが如き舊弟子の精神に就て　(ろ)十七〇三、四に示されたるが如き新弟子の精神に就て　(は)十七〇二、三、四、六に云へるイエスの答辨に就て　(に)十七〇七―十の力辞的譬喩に就て考へよ

第四　宗教的教訓

本文の重なる思想ハ「財産を賢く用ゐる事」なるが如し、(一)以前不義に因て得たる財産と雖も之を慈善事業に用ゐるとに因て不義の汚名を一洗し得べし　(二)精神を零落せしむる所の重き罪は好機會の眼前に横ハれるに關らず財貨を以て善事を爲すを怠る事なりとす　(三)富人に言ふ所のものハ亦貧人に言ふ所也十七〇二に言へる戒諭ハ貧富の人共に服膺せざるべからず　(四)無私の精神ハ貧者も富者も共に之を發揮せざるべからず之れ神の前に崇めらるゝ所の標準也

課程第卅七第卅八、巡遊の終焉、ペレアに於ける教訓、

(路十七〇十一―十八〇卅)

注意　各課程を學ぶに當り其全節を讀誦して記事の重なる部分を視察するを要す

(一)　材料の考試

左の順序方法ハ常に此課程に必要なるが故に宜しく記臆すべし

(一)一節或ハ一句を讀んで其大体の主意を領する事(二)大切ある

字句或ハ難解の字句を考究する事(三)一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の字句を考定し而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯ハす事(四)宗教上の教訓を學ぶ事

其一　(十七〇十一―十九)

(一)學生之を讀で其主意を考定せよ

(二)大切なる語句ハ左の如し、(一) "to Jerusalem" 「エルサレムに」物語の發端あるか、九〇五十一、十三〇二十二を參考せよ (二) "through the midst" 「中を」他の譯語を見よ (三) "go and shew yourselves" 「往て己を祭司に見せよ」(い)爾等ハ已に療されたりと信じて往けの意五〇十三、十四を參考せよ (ろ)信仰の試驗

(四) "as they went" 「往く間に」(い)本來ハ were going 往く路すがらに (ろ)之れ不意にあらずして逐次に療されしにや (は)彼等ハイエスの語を聞て之を受容るゝの信仰を有せしや

(五) "when he saw" 「其中の一人己が醫されしを見て (い)彼ハサマリヤの祭司の許に往きつゝありしにや (ろ)彼ハ往て而して後返へり來りしにや (六) "at his feet" 「足下に」(い)之れ律法を犯し而してイエスの命令に不順從あるにあらずや (ろ)之が申譯ハ如何にして立ちしや (七) "were there none found, etc." 「この異邦人の外に……返りたる者あらざりしや」九人ハイエスの命令を服膺して之を全ふせざりしや

(三)之が思想を左の如く云ハゞ如何

サマリヤとガリラヤとの境にて十人の癩者癒されんとをイエスに哀願せしに癒されたりと信じて祭司の許に往けと諭さる彼等乃ち往く路すがらに癒されぬ其一人あるサマリヤ人ゝ路を轉じ返へり來りて感謝せしかばイエスの祝福を辱ふせり、之に反し他の九人ゝ禮意を表せざるの謂を以てイエスの批難する所となりぬ

(四)此に宗教的教訓として大切なる點ゝ禮意を表せず愛情を現ゝさぶる事についての實例是也抑々吾人ゝ凡て斯の欠點に陷り易きものにあらずや

(引証)人ゝ善き信仰を有す中略彼等ゝ赦されたり彼等ゝ重荷をおろしたりと思ひ罪の病を醫されたりと感ず然れども彼等ゝ愛情的禮意を表せず *Plumptre*, p. 282.

其二　(十七〇廿、廿一)

(一)之が主意ゝパリサイ人の疑問と之が答にあらずや

(二)左の語句ゝ考究すべき大切なるもの也、(一)"asked"「問ゝれければ之が問ゝ　(い)嘲弄的に出でしものか　(ろ)空想に出でしものか　(二)"with observation"「顯れて」即ち注意心配して見る事"within you"「爾等の衷に」(い)話しかけられたる人々と

(ろ)前後の文勢とに視て之を他の譯語即「爾等の中に」と比較せよ

(三)學生之が思想を言顯ゝし得ん

(四)イエスゝ現在の事を等閑に付し本分を盡すを怠りて猥りに未來の幸福に就て空想を懷くの愚あるとを批難せり之れ心

に銘すべき事にあらずや

其三　（十七〇廿二―卅七）

(一)之を讀で左に言へる主意を批評せよ「人間の子の來る事」

(二)(一)"disciples"「弟子」彼等ハ十七〇廿一の言顯に因て五里霧中に迷ひたりしや　(二)"one of the days"「一日」之れ　(ハ)過去の日乎　(ろ)未來の日乎　(三)"shineth, etc."「光る云々」不意にして而かも萬民に認められたる出來事　(四)"but first"「然ど……先づ」(廿五節)之れ多くの苦を受け此世の人に棄てらるゝまでハ來らずの意　(五)"in the days of the Son of man"「人間の子の時にも」(ハ)即、彼の將に來らんとする時　(ろ)其時ハ大なる災禍あるべし　(六)"in that day, etc."「其日にハ云々」(卅一節)　(ハ)彼の來る時　(ろ)其時ハ浮世の事を思ひわづらふべからず　(七)"gain his life"「其生命を救ハん」(卅三節)即ち其時に　(八)"be taken"「執られ」(卅四節)人間の子に合體せらるゝとか　(九)"where the body is"「屍の有る所にハ」即ち災害を招くべき場合の熟したる何處にでもの意

(三)之が思想を省約して云ハゞ左の如く也

イエス弟子に謂て曰く今神の政及び其榮光を期すべからず爾等ハ將に患難に遇ひて試みられんとす其時我が現出を待ち望まん、人々爾曹に我ハ此處ゐ在り彼處に在りと云ハん然れども我が來るハ電光の如くにして何處にても見らるべし我ハ先づ棄てられて死するを免れず而して時の近くに從て

人々ハ恰もノアの洪水が不意に來りたる時の如く思慮なく浮世の事に齷齪として徒に日を暮さん爾等宜しくロトの妻を臆へて浮世の利害を一切放棄すべし時來れば同床に在るも共に磨ひき居らんも別かたれて一人ハ執られ一人ハ遺さるべしと而して彼等此事ハ「何處」に在りやと質しゝにイエス答て曰く腐肉の有る所にハ鷹あつまらんと

(四)學生之が宗教的教訓を言顯ハし得ん

其四　(十八〇一—八)

(一)之が主意ハ「嫠婦と裁判人の譬喩」にあらずや

(二)特に興味ある語句ハ左の如し。(一)"ought always to pray, etc."「恒に祈禱るべきことを云々」(い)十七〇廿二—卅七に現るに此に此教訓の必要ありしや　(ろ)之れ來らんとする世の終末についての祈禱なるべかりしや　(二)"judge"「裁判人」神の雛形乎　(三)"wear me out"「我を聒ます」(五節)他の譯語と比較し見よ

(四)"and he is long-suffering, etc."「神……久しく忍ぶとも云々」即ち神ハ暫らく救ふことを猶豫するもの意　(五)"faith"「信仰」(い)他の譯語と比較し見よ　(ろ)世の終末に就ての信念　(は)一節の「祈禱」の意味を明かにす

(三)學生宜しく左に言顯ハせる所を批評すべし

イエス其來る事に就て恒に祈禱するやう彼等に教へんが爲に譬喩をとりて曰く不義なる裁判人すら一嫠婦が切に求めて止まざるが故に遂に正當の裁判を下して之を其仇より救

ひたりき況して神に於てをや縱令暫く猶豫するとも終にハ其民の求めに應せざらんや然れど我の來る時其來るを希望しつゝある者此世に在りやと

(四)神の德性たるや恒に祈禱を奬勵し而して必らず之に應答せらるべき也之れ明に此宗敎的敎訓也

其五　(十八〇九—十四)

(一)之を讀で其主意を臆へよ「パリサイ人と稅吏の譬喩」

(二)學生宜しく之が語句を綿密に考究すべし而して特に難解の語句に注意せよ

(三)是等の節を省約して云ハゞ左の如し

イエス自ら義と意へる者を敎ふるに殿ゐ於て祈りし二人の譬喩を以てせり其一人なるパリサイ人ハ其善き行狀及び他の者に優れる事おついて神に感謝せり他の一人なる稅吏ハ誠惶頓首して己の罪人なるとを慚謝して神の慈惠を乞へり然れども此人ハ彼人よりハ義とせられて神に喜べる神ハ自ら高ぶる者を卑ふし自ら卑ふする者を高ふせらるれば也

(四)學生之が宗敎的敎訓を考定し得ん

其六　(十八〇十五—十七)

(一)學生之を讀で其主意を言顯ハせ

(二)(一)"they" "rebuked" 「人々」「誰乎」(二)「咎めたり」之を咎めたる者の感情如何　(い)嬰孩に對する當時普通の感情乎或ハ(ろ)其主を崇敬するの余り然かせしか或ハ(は)彼等其談論を妨

げられたるに因るか、可十〇一―十六を參考せよ　(三)"of such is etc."「是の如き者に在れば也云々」(十六節)　(い)即ち神の政ハ斯る者わ屬すの意　(ろ)之れ實際的乎譬喩的乎　(は)次節に因て説明されしや

(三)之が思想の有る所を考へよ

イエスに接られんが爲め嬰孩を携れ來る者ありしに弟子之を批難せり　イエス曰く嬰孩をして來らしめよ彼等ハ實に神の政を有する者也爾等も亦神の政に入らんにハ嬰孩の如くならざるべからずと

(四)學生之が宗教的教訓を考定せよ

其七　(十八〇十八―卅)

(一)之を讀で其主意を考へよ「イエスと宰」と云ハゞ如何

(二)大切或ハ難解の語句は左の如し、(一)"why callest thou, etc."「何んぞ我を善きと稱や」(十九節)　(い)之れイエス己を卑ふして言ひしにや或ハ　(ろ)イエスハ神と同等を以て自ら居るゝや或ハ　(は)虛飾的會釋に鋭き打擊を加へしにや　(二)"one thing"「一つ」(廿二節)　(い)一つを欠くと曰はれしも命ぜられたるものハ三事わり何故乎　(ろ)此命令ハ宗教的生活に於て自己を全ふするの方法なるか或ハ之れ斯る生活の根據となり基礎となるものか　(は)此命令ハ何程の程度まで一般に命令通り服膺せらるゝか　(三)"how hardly"「如何に難い哉」(廿四節)即ち其甚だ困難なるをいふ　(四)"enter into"「入るハ」(廿四節)之れ　(い)

未來の有樣について云へるや或い　(ろ)現在について云へるや　(五)"house or wife, etc."「家或い妻云々」(廿九節)　(い)之れ實際的乎譬喩的乎　(ろ)若しも譬喩的なれば之れ基督教社會に於て一樣平等に有せらるべきものなるか(哥前四〇十五、使四〇卅四、羅十六〇十三)或い一個人に對する精神的報酬なるか(哥前三〇廿二哥後六〇十)　(六)"world to come"「來世」(卅節)之れ

(い)キリストの時乎或い　(ろ)未來の生涯乎　(は)之を「永生」と比較して說明せよ

(三)　(一)十八―廿三、(二)廿四、廿五、(三)廿六―卅の三部分を臆へて之が思想を言顯すべし

(四)之が宗教的大教訓い吾人の感情、目的に於てキリストと神政を第一に置くの絶對的必要是也

(二)　材料の類別

第一　本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含有せる事柄、左の表を熟誦すべし

巡遊の終焉、ベレアに於ける教訓

(一)癩病者の潔められたる事

(二)パリサイ人の疑問と之が答

(三)人間の子の來る事

(四)婦と裁判人の譬喩

(五)パリサイと稅吏の譬喩

(六)イエスと嬰孩

(七)イエスと宰

第二　材料の視察

(二百六十四)(十七〇十一)イエスゝ國境に傳道しつゝありしが如し而して之れ十四章より十六章にいへる出來事と教訓に基因して新に反對の勃興せるが爲めならん

(引証)按ずるにキリストゝエフライムを去りガリラヤの北境に沿ひて間道より其南境の或所に至りしならん而して之れエルサレムに至る彼が最後の旅行に附從すべかりし人々と或塲所に出遇ゝんが爲めならん *Edersheim*, II., 327 Ab. Ed. 436.)

(二百六十五)(十七〇十六)サマリヤ人に關して懇篤に錄せしもの

ゝ四福音の記者中獨りルカ也

(引証)ルカがサマリヤ人に關する此出來事を譬喩的に言顯ゝしたるゝ其福音書の正教的たるに適ふ *Plumptre*, p. 282.

(二百六十六)(十七〇十八)ユダヤの祭司の許に往きたる是等の者が皈り來らざりしとゝ意味ありげなり、イエスゝ治者の位置に立てる祭司等に不人望なりしや

(引証)不意に其癩病を醫したる事ゝ(之れ奇跡的性質を帶ぶ)九人のイスラエル人の痳痹せる道德性を醒起するに毫末の功能もあらざりき彼等ゝ唯方法の如何を問ゝず難病の醫されんことを欲せり故に彼等ゝ救拯の天音を聽かざりき *Maurice*, p. 269.

吾人ゝ動もすれば是等の人の信仰を過信するの恐れあり

Edersheim, II., 330. (438.)

(二百六十七)(十七〇十九)サマリヤ人と雖も信仰に因て救いるべきことを言てイエスの教訓を明示したる者いルカのみ也

(二百六十八)(十七〇廿七—卅)之れ恰もエルサレムの亡ぼされし當時の事に彷彿す

(引証)危急の秋眼前に迫り審判の日近きに在るも恬として顧みざるい之れ古今の通弊也エルサレムの滅亡旦夕に迫れるも尚ほ住民い之を信ずる能いざりし也彼等い云へりダビデの勝利い汚れたる羅馬人に打勝たるべしとい思いれずと要するに主の此教訓い其弟子の心より斯る望を一切取除かんとて也 *Maurice*, p. 275.

(二百六十九)(十七〇卅一—卅三)或不慮の出來事い來らんとす其時いキリストの僕たる者、財産を捐てゝ身を以て遁るゝの用意ころ緊要なれ

(引証)此語い明にエルサレムの滅亡について云へるものにして人間の子の顯現に關して也 *Plumptre*, p. 286.

羅馬の軍勢の將に攻め來らんとするやキリストの弟子い倉皇遁るの外安全の道あらざるべし *Bliss*, p. 265.

(二百七十)(十八〇三)當時嫠婦い保護あき者ゐして悪人の凌辱を蒙るを免れざりき、蹇一〇廿三太廿三〇十四を參考せよ

(二百七十一)(十八〇二—八)此裁判人に視て神い終に求めに應へ給ふものなるを知れ再び三たび求むるも應答あしとて落膽

するが如きとあるべからず此譬喩の意蓋し此に在り

(引証)イエスが斯る不義の裁判人を父神に比して言ひしゝ此者にして尚然り況んや神に於てをや確信を以て求むるに於てゝ必らず應へらるべしとの意を人々の心に吹込まんが爲めも也 *Bliss*, p. 266.

此不義なる裁判人に視るに神ゝ求めて屈せざる信仰に應へ給ふや必せり *Parabolic. Teaching*, p. 448.

(二百七十二)(十八〇十一、十二)パリサイ人の重なる宗教上の欠点ゝ自ら義とするにあり

(二百七十三)(十八〇十五)此出來事を以てイエスの生涯に關するルカ獨特の記事を終る(十章より十七章是よりゝ馬太及び馬可と一樣の物語にうつる

(二百七十四)(十八〇十八)此宰がイエスを尊敬する理由ゝ眷顧を辱ふしたるに在るもの〻如し

(二百七十五)(十八〇廿三)彼の性質ゝ私慾を以て固められたる程にゝあらず彼ゝ其富を捐つる能ゝざるを憂へり

(引証)彼ゝ富人ありき、人ゝ富人たるよりも貴き者たるを得ると を見る能ゝざりしころ彼の爲に氣の毒あれ *Maurice*, p. 284.

(二百七十六)(十八〇廿六—廿八)此弟子等ゝ富める者に關していへる舊約書の精神を得ざる也、申廿八〇一、十一等を見よ

第三　學課の題目

ペレアの傳道、之れイエス、キリストの働に在て最も大切なるも

の也故に學生此題目について特に綿密に考究すべし)(百四十八—二百六十六を見よ)(一)ペレア傳道の物語に於て其三段落を想起せよ—之を舞臺と云ふことを得るか、(い)九〇五十一—十三〇廿一　(ろ)十三〇廿二—十七〇十　(は)十七〇十一—十八〇卅、(二)各舞臺に於ける出來事の順序を可及的精細に考究せよ　(三)其傳道の長さに就て　(い)其終末に迫りたる時の逾越節より、(廿二〇一を參考せよ)(ろ)其發端前の逾越節及び約六〇四の出來事より　(は)九〇五十一の巡遊(十〇卅八を參考せよ)を約七〇二の巡遊と比較し見よ之れ同一乎　(四)パリサイ人に對せるイエスの立場を知れ　(五)人民に對するイエスの位置を視よ特に其公明正大なる論告と譴責を考へよ　(六)且弟子たるを得るに欠くべからざる條件の嚴格なる事及びイエスの嚴格なる精神に心を留めよ　(七)此嚴格なる精神を　(い)稅吏と罪人　(ろ)サマリヤ人に對する慈惠的教訓と比較し見よ　(は)此傳道の目的と結果及び此間イエスの働と教訓の發達につき之を總括して見よ

第四　宗教的教訓

學生之が主意を撰擇するを得ん例へば己を捐つる事ハイエス、キリストの弟子の眞の安全にして亦無二の報酬也と云ふが如し、其他ペレア傳道の當時の事に就て本文に含有せる事柄に視て宗教的教訓の存する所を言顯ハすべし

課程第卅九第四十　死の蔭に入る

(路十八〇卅一—十九〇四十八)

注意　各課程を學ぶに當り其全節を讀誦して記事の重なる部分を視察するを要す

(一)　材料の考試

左の順序方法ハ常に此課程に必要なるが故に宜しく記憶すべし

(一)一節或ハ一句を讀んで其大体の主意を領する事(二)大切なる字句或ハ難解の字句を考究する事(三)一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の字句を考定し而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯ハす事(四)宗教上の教訓を學ぶ事

其一　(十八〇卅一—卅四)

(一)之を讀で其主意を考へよ　「再び教訓の不遇」

(二)左の語句ハ大切也、(一)"understood none"「少しも解せず」(卅四節)如何に之を說明せんか、九〇四十五を參考せよ　(二)"was d"ih「隱れたれば」誰に因てか

(三)之を省約して言顯ハすとハ學生の能する所なるべし

(四)重なる宗教的教訓ハ廿四節に在るが如し夫れ最も明瞭なる事實の言顯を人の心に隱すものハ僻見と豫想也

其二　(十八〇卅五—四十三)

(一)學生之を讀で其主意を考定せよ

(二)大切なる語句ハ左の如し、(一)"drew nigh, etc."「近よれとき云々」可十〇四十六を參考して其說明に視よ　(S)二ツの市即エ

リコに新と舊とあり　(ろ)イエスが往きつ返へりつせしを以て見れば醫療の働き一時に止まらざりき　(は)可十〇四十六と殆んど見分け難き差別　(二)"son of David"「ダビデの子」救主の名　(三)"rebuked him"「斥む」(卅九節)　(い)謂れなく擅に叱斥せしものか　(ろ)何か見込みありしや　(四)"all the people ..... gave praise"「民みな……神を讃美せり」(四十三節)彼等がイエスに對する新らしき立場

(三)是等の節に含める思想を言顯さば左の如けん

エリコに近き所に於て瞽者大勢の過ぐるを聞て其イエスの通行せらるゝを知りイエスをキリストとして之に歎願するに盲の醫されて再び見るを得んとを以てせしに衆人に叱斥されしもイエスに呼ばれて醫されたり而して民之を見てみな神を讃美せり

(四)イエスの與へらるべき賜を瞽者に與へぬ蓋し此盲者が幸福を得たるの其信仰に因る

其三、(十九〇一—十)

(一)之を讀で其主意を臆へよ　「ザアカイとの邂遇」

(二)(一)"chief publican"「重なる稅吏」(二節)即ち其地方の稅吏の長也　(二)"rich"「富める」之れ異例乎　(三)"Zacchaeus"「ザアカイ」イエスの如何にして彼の名を知りしや　(四)"joyfully"「喜びて」(六節)彼がイエスに對する感情を知るに足る、(五)"I give"「施さん」(八節)即ち施さんと欲す　(六)"I restore"「返さん」(八節)之

れ悪しきことを懺悔せしにや（七）"for"「何となれば」（和譯にハ此語なし）（十節）其行爲の言譯、十五章を參考せよ

（三）之を省約して云ハゞ左の如けん

サアカイと云ふ短身の稅吏長ハイエスがエリコを通行せる時之を見んと熱望して桑樹に登りぬ、イエス樹下を過て之を見、我れ汝の家に宿らんと曰ひしかば彼喜びイエスを迎ひて貧者に施與を爲さんことを誓ひ且若し詐ひ訟へて人より取りたるものあれば四倍して之を償却せんと約しぬ、イエス曰くアブラハムの子なる此人ハ救ハれん、ハ我が來りしハ斯る喪ハれし者を救ハんが爲めあればなりと

（四）イエスが此稅吏に同情を表したるハ財産を捐てゝ新生を得んと欲する決心を知りたれば也、愛ある者ハ常に有望にして失望せざる也

其四　（十九〇十一―廿七）

（一）之を讀で左に云へる主意を批評せよ「金の比喩」

（二）學生之が大切或ハ難解の語句を撰擇考究せよ

（三）是等の節に含有せる思想を左の如く言顯さば如何

人々ハイエスのエルサレムに近づけをる見て神の政たゞちに顯ハるゝあらんと想像せるを以てイエス之に謂て曰く或貴者自ら領地を受て皈へらんとて遠國へ往くとき十人の僕を召びて皈國するまでの商賣の資本として一斤づゝを與へおき、後領地を受て皈へりし時一人ハ十斤の利を得一人ハ五

斤を得たり然るに一人ハ一斤を其まゝ手巾に裹みて持來り君ハ嚴き人なるが故に万一失敗して君の怒に觸れんとを恐れて、堅く藏め置きたりといひけれバ主人答へて果じて然らバ之を銀行に預けて利子を得べき筈なり汝ハ無益の者なり其一斤を多く有てる者に與へよと曰へり且曰く我が支配を擯斥したる者を曳來りて誅すべし云々

(四)同額の資本を附托されたる主の多くの僕ハ元金のまゝ返納すべきにあらず全力を盡して之が增殖を圖らざるべからず而して報酬ハ其盡力の度に在る也本文の宗教的教訓ハ此事に在て存す

其五　(十九〇廿八―四十)

(一)之が主意ハ「凱歌を奏してエルサレムに入る」是也

(二)(一)"Bethany"「ベタニヤ」約廿一〇一を參考せよ按ずるにイエスハ安息日を其處に守りしならん　(二)"ye shall find a colt, etc."「駒に遇ふべし云々」(イ)此ハ人智以上即ち人間の智力の及バざる所なりしや　(ロ)彼ハ觀測に因て或ハ前以て準備しおきたるとに因て之を知りしや　(三)"ever yet sat"「人の未だ乘らざる」民十九〇一、二、申廿一〇三、亞九〇九、撒前六〇七を參考せよ　(四)"the Lord"「主」(卅一節)之れ　(イ)エホバか　(ロ)キリストか　(ハ)主人か師匠か十八〇四十一、十九〇八を參考せよ

(五)"spread their garments"「衣を路上に布けり」(卅六節)王下九〇十三を參考せよ　(六)"King that cometh"「來る王」(卅八節)路七〇十

九を參考せよ　(七)"in the highest"「至上所」即天也　(八)"stones will cry out"「石號呼ぶべし」(い)此表徴ハ斯く赫々たり　(ろ)証據の必要ハ斯く著し

(三)學生之が思想を言顯ハし得ん

(四)之が宗教的教訓の一ハイエス、キリストハ我儕の王にして其僕の忠義を悅び給ふと是也

其六　(十九〇四十一—四十四)

(一)之を讀で其主意を考へよ「エルサレムを見て主哀哭す」

(二)左の語句に注目せよ　(一)"hadst known in this day"「今この爾の日に於て……知りたらんにハ」(い)何は好機會のあるを指示す　(ろ)然れども其圍み攻められんとに就てハイエス已に望を絶てり　(二)"because thou knewest not"「爾……知らざれば也」(四十四節)執拗より生ずる無智、十三〇卅四を參考せよ

(三)之が思想を左の如く言顯さば如何

イエスエルサレム市を目前に見し時市民が彼等自身の爲に最良の策を立つるを知らざるを歎じぬ彼等はイエスを知らざるに因て該市が速に圍まれて住民と共に滅亡せんとする の危急に迫まれるを知らざりき

(四)學生之が宗教的教訓を考究し得ん

其七　(十九〇四十五—四十八)

(一)之が主意を「イエス殿に入る」と云ハゞ如何

(二) (一)"them that sold"[貿易せる者を](四十五節) (い)殿に於て貿易する場合に就て考へよ (ろ)貿易者を逐ひ出したるイエスの精神を臆へよ、此時のイエスハキリストか預言者か (は)約二〇十四を參考せよ (二)"den of robbers"[强盜の巢]此批難の正當なりしハ如何なる故ぞや

(三)學生之が思想を言顯ハし得んし

(四)之が宗教的教訓ハ宗教を利慾の方便となしたるとに在て存す、今日と雖も此に類するとあきや

(二) 材料の類別

第一　本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含有せる事柄、左の表を熟誦せよ

死の蔭に入る

(一)再び教訓の不遇

(二)盲目の乞者の醫されたる事

(三)ザアカイとの邂遇

(四)金の比喩

(五)凱歌を奏してエルサレムに入る

(六)エルサレムを見て主の哀哭

(七)イエス殿に入る

(二)總括、本文の全節を總括して左の如く言ハゞ如何

イエス巡回してエリコに來り衆人歡呼のうちに盲目の乞者を醫せり蓋し彼ハイエスをキリストとして懇請せし者也イ

エス又路に税吏ザアカイに遇ひ其家に宿りしに彼い自己を献じ且不法の所得を捐てんと決心せり、イエス神の政の速に來らんとを期望する衆人に比喩をとりて曰く或貴人自ら領地を受て飯へらんとて出立の際商賈の資本を其僕輩に遺して遠國へ往きしが飯へりて忠實なる者を賞し不忠實なる者及び敵を罰せりと、終に衆人に先ちキリストとしてエルサレムに入り市民皆其心盲なるが故に全市を舉て將に滅亡の時來らんとするを見て歎息せり而して殿に入りて貿易せる者を逐出し祭司及び學者等の謀計を凝らせるにも係らず三晝夜の間衆人を教誨せり

第二　材料の視察

學生宜しく前例に倣ひて左の數節に就き視察する所あるべし

(一)十八〇卅二、(二)十八〇卅四、(三)十八〇卅六、四十三、十九〇三、(四)十八〇卅八、(五)十九〇卅五—卅八、(九)十九〇四十、(十)十九〇四〇十三、(八)十九〇卅五—卅八、(九)十九〇四十、(十)十九〇四十三、四十四、(十一)十九〇四十五、四十六、(十二)十九〇四十七、四十八、

第三　學課の題目

エルサレムに至る最後の旅行、(一)事の有樣に注意せよ　(い)ベレアに於ける働、(ろ)逾越節の爲に集まれる人民　(は)イエスいエルサレムに於て逾越節を守らんと決心せり　(に)イエスいエリコを經て國道を通行せり　(二)(い)十二使徒の立場　(ろ)人民の

立場　(は)パリサイ人の立場を見よ　(三)エルサレムに入りしとを考へよ　(い)人民ハイエスをキリストとして祝せり　(い)イエスハ彼等の此立場を嘉せり　(は)イエスハ公然キリストとして入れり　(四)此巡行中イエスの教訓に注意せよ　(い)權威を得て飯り而して賞罰を行ハんが爲に今往きつゝ未だ顯れざる貧しき王に關する比喩　(ろ)全力を盡して働く爲に殘されたる僕(は)覆へさるべきイスラエルと亡さるべきエルサレムとの宗教的系統　(五)終にイエスがエルサレムに入りたる時の事物の有樣に就て考へよ　(い)イエスハ自己を彼等のキリストとして國民に披露せり　(ろ)イエスハ其擯斥せらるべき事を知覺せり(は)若しも人民の受容るゝ所とあらバ如何

第四　宗教的教訓

本文に於て學ぶべき事をイエスの勇氣と題じて考究せよ　(い)最後の時來るまで目前に横ハる働を怠らずして銳意之に執掌せる事　(ろ)能く之を知覺して大膽に死の面前に進みし事　(は)キリストを擯斥すべかりし人民の前に自らキリストなりと公言して現ハれし事、嗚呼之れ其私利を圖る爲に非らざりしや明けし矣　(に)殿を瀆したる者を斥けて之を潔めし事　(は)イエスの立身功名を確信せる人々をも忌憚なく教戒諭告せし事(十九〇十一)

課程第四十一第四十二、「エルサレムに於ける衝突」

(路廿〇一―四十七)

注意　各課程を學ぶに當り其全節を讀誦して記事の重なる部分を視察するを要す

（一）材料の考試

左の順序方法ハ常に此課程に必要なるが故に宜しく記臆すべし

（一）一節或ハ一句を讀んで其大体の主意を領する事（二）大切なる字句或ハ難解の字句を考究する事（三）一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の字句を考定し而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯ハす事（四）宗教上の教訓を學ぶ事

其一（廿〇一―八）

（一）之を讀で其主意を臆へよ、「イエスの權威疑ハる」是也

（二）左の語句を考究せよ、（一）"chief priests and scribes, etc."「祭司の長、及學者、長老等」即ちサンヘドリム（猶太教會）の三階級の代表者、（二）"what authority"「何の權威」預言者としての權威乎師匠としての權威乎或ハキリストとしての權威乎（三）"who gave, etc."「爾に與へたる者ハ誰ぞや」（い）權威の本源に尋及せしものか（ろ）此疑問の精神如何（四）"baptism"「バプテスマ」即ち此表徴に因て現ハされたる彼の職

（三）學生之が思想を省約して言顯ハし得んぐ能ハず

（四）質問者にして正實ならざる時ハイエスより何等の光明を仰

其二　（廿〇九―十八）

（一）學生之を讀で其主意を考定せよ

（二）左の大切或ゐ難解の語句を考究すべし　（一）"a vineyard"「葡萄園」（九節）裏五〇三―七を想起せよ　（二）"give him of the fruit"「果を受取らん爲に」（十節）（い）地代か或ゐ（ろ）持主の所有に屬する生產物か　（は）農夫等ゐ此生產物を出すを怠れり　（三）"beloved"「愛する」（十三節）ルカのみ斯く書せり　（四）"son"「子」（十三節）イエスゐ神の子たるとを玆に主張せしや　（五）"that the inheritance, etc."「遺さるべき財產の我儕の所有になるやう」彼等ゐ如何にして斯る結果を想像せしや　（六）"others"「他人」誰乎　（七）"the stone, etc."「石云々」（十七節）（い）譬喩　（ろ）之が適用の起原　（は）イエスが之を適用せしと等に就て考へよ

（三）之が思想を言顯さゐ左の如し

イエス譬喩をもて曰く葡萄園の持主之を農夫に貸して他國へ往けり彼ゐ葡萄園の果を受取らんが爲に適當の時期に及んで其僕を遣ゐせしと三たびに及びしが第二に遣ゐせし僕ゐ第一に遣ゐせし僕よりも逆待され第三に遣ゐせし僕ゐ第二に遣ゐせし僕より一層逆待せられしかゞ持主乃ち其子を遣ゐせしに彼等ゐ尊敬せざるのみならず葡萄園を横領せんと欲する野心より遂に之を殺せり、夫れ事此に至れゞ持主ゐ彼等を亡ぼし而して葡萄園を他人に與へざらんや云々、此を聞きたる人々「然らざるべし」と答へけれゞイエス更に曰く

匠人に棄てられたる石ぞ終に最も高き所に置かれしものなるとゝ聖經の教示する所にあらずや此石の上に墮るものゝ壞れ、此石上に墮れゞ其もの碎かるべしと

(四)學生之が宗教的教訓を考定せよ

其三　(廿〇十九—廿六)

(一)是等の節を讀で其主意を考へよ[租稅に關する議論]

(二)左の語句ゝ特に考究するを要す　(一)"against them"[己を指して云々][十九節]　(二)"righteous"[義人][廿節]　(三)"acceptest not the person"[人を隔てず][廿一節]　(四)"craftiness"[詭譎][廿三節]　(五)"image"[像][廿四節]　(六)[廿五節]　(七)"before the people"[人民の前に][廿六節]

(三)之が思想を左の如く言顯さゞ如何

有力なる彼等ゝ若しも民に畏るゝ所なくゞ彼等を攻擊したるの謂を以てイエスを捕へしなるべし、彼等ゝ詭譎を以て彼を試みんが爲に人々を遣ゝせり其人々イエスの許に往き先づイエスの教訓を讚め而して問ふて曰く稅をカイザルに納むるゝ神の律法に適へるや否やとイエス即ち小貨幣を取りカイザルの肖像に指してカイザルの物ゝカイザルに納め神の物ゝ神に納むべしと曰ひけれゞ人々奇異の思をなして默然たり

(四)本文の宗教的教訓ゝ吾人が國家と神とに對して義務を有する事に就てのイエスの主義に在て存す

其四　（廿〇廿七—四十）

（一）左に云へる主意を批評せよ「復生に關する疑問」

（二）大切なる語ゝ左の如し、（一）"Sadducees"「サドカイ人（廿七節）彼等の歴史及び意見如何　（二）"resurrection"「甦る事（廿七節）即ち肉体の甦へる事　（三）"asked"「問ひけるゝ」質問せし彼等の意志如何　（四）"Moses wrote"「モーセ我儕に書遺るゝ」（廿八節）申廿五〇五、六を參考して其習慣を臆へよ　（五）"that world"「彼世」（廿五節）即ち此世と區別して云へるものにして復生したる時に之れ有りといふ　（六）"Moses shewed"「モーセ之を明白せり」（廿七節）出埃及記の典據につゐてイエスゝ如何なる觀念を懷きをるやを知るに足る　（七）"all live, etc."「神に對して皆生る者云々」（廿八節）即ち皆とゝ（い）凡ての動物について云へるか或ゝ（ろ）廿七節に云へる凡て神の子供たる者について云へるか　（八）"well said"「善くいへり」（廿九節）此答の精神如何

（三）本文の思想を左の如く言顯さゞ如何

復生を信せざるサドガイ人來り問ふて曰く七次良夫を代へたる婦人ゝ甦りたる時誰の妻と爲るべきやとイエス明答して曰く此世の婚姻例を彼世に應用するを得ず、死せし者の甦ることに就てゝモーセ棘中の篇に主をアブラハムの神イサクの神ヤコブの神と稱へて之を明白にせり神ゝ死たる者の神に非ず生る者の神なり蓋神の前にゝ皆生る者なれば也と學者等ゝイエスの答を讃して敢て再び問を發する者なかりき

(四)最も大切なる宗教的教訓ハ神の子供たる者ハ神に依て生くべき者なるとの保証是也

其五　(廿〇四十一—四十四)

(一)學生之を讀で其主意を考定せよ

(二)(一)"he said"「イエス曰ひけるハ」新らしき立場　(二)"Say they" "David himself saith"「ダビデ自ら人々……言ふや」誰乎　(三)"David himself saith"「ダビデ自ら……云へり」(四十二節)此詩篇の典據についてイエスハ如何なる觀念を懷きおりしやを知るに足る　(四)"Lord"「主」(四十四節)人間即ち死すべきキリストより高く貴き者

(三)是等の節を省約して云ハゞ左の如し

イエス　彼等に問ふて曰くダビデ自ら詩篇に主、我主にいひけるハ我、汝の敵を汝の足凳と爲すまで我が右に坐すべしと云へり然らバキリストハダビデの子なりと云ふことを得るかキリストハダビデの子たると同時に亦其主たることを得るかと

(四)之れイエス、キリストの人間以上なることを確むるもの也然らバ吾人と彼との關係如何

其六　(廿〇四十五—四十七)

(一)是等の節を讀で其主意を臆へよ「最後の諭告」

(二)(一)"in the hearing, etc."「聽つゝある問に」(四十五節)此意味如何　(二)"in long robes"「長服を以て」即ち　(ハ)官職を誇る爲めか或ハ　(ろ)人目を引かん爲めか　(三)"love, etc."「喜ぶ云々」要するに之れ何を意味するや　(四)"devour widows' houses"「嫠婦

の家を蠶食し　(い)彼等ハ律法について人に優れる智識を有しをるに因てか或ハ　(ろ)宗教上の奸計に因てか

(三)學生之が思想を簡略に言顯ハし得ん

(四)自尊驕慢の原因結果に注意して視よ宗教社會に於て尙之れ有り

(二)　材料の類別

第一　本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含有せる事柄、左の表を熟誦すべし

エルサレムに於ける衝突

(一)イエスの權威疑ハる

(二)惡しき農夫の譬喩

(三)租稅に關する議論

(四)復生に關する疑問

(五)舊約書の引証

(六)最後の諭告

(二)總括、學生宜しく是等の節を總括して言顯ハすべし

第二　材料の視察

(二百七十二)(廿〇一)イエスの働ハエルサレムに於て有力なる祭司等の妨ぐる所となれり

(二百七十三)(廿〇二)此質問の意志ハ　(一)イエスを威服するか或ハ　(二)信を人民に失ハしめんか二者其一に在るものゝ如し

(二百七十四)(廿〇四、五)ヨハネの預言者的權威についての問ハ單

に彼等をして口を噤せしむる策略に非ずして之れ實にイエスの權威を証明するヨハネの議論たる也

(引証)イエスハ大小輕重の差の他其權威をヨハネの權威と一樣に見做せり彼等ハ同一の教化を蒙り同一の權威を以て確められたる者也若しもヨハネの言ひし所神に出でたりとせバイエスが自己に就て云ひし所亦神に出でし也ヨハネのバプテスマ及び教訓を天啓として受容るゝ時ハヨハネの教訓の終末を完成すべかりしイエスの教訓を受容るゝの固より當然なるとを知らざるべからず *Vallings*, p. 165.

(二百七十五)(廿〇二)猶太の教師等ハ其教ふる權威を信用ある知名の師匠より受けり

(二百七十六)(廿〇九)イエスハ今と雖も彼を擯斥するの結果より人民を救ハんと努めらるゝなるべし

(引証)此譬喩の性質を考ふるに渝ハらざる運命を明言したるに非ずして之れ唯威嚇的預言なりしとを知る人若し終に悔改むるに至らざれバ固より此運命に陷るを免れずと雖も現在或ハ將來に於て眞に悔改むるに於てハ此預言の如き運命に陷るを免るゝを得べき也此譬喩ハ歴史に因て言ひしものに非ざるも凡ろ人生に應用さるべき神の律法を明示せしものなり此農夫等ハ頑乎として終に悟らざるに於てハ放逐さるゝや必せり矣 *Weiss*, III., p. 245.

(二百七十七)(廿〇九—十五)此譬喩ハ猶太の神學が神と如何なる

關係を有するか其歴史の概略を表示せるもの也但しイエスの時に至るまで及びイエスとの關係を含むものと知るべし

(二百七十八)(廿〇十三、四十一—四十四)イエスハ自己をキリストとして人間以上のものなることを此に主張せるものゝ如し

(引証)學者等が頑固にもイエスを擯斥批難したる所以のものハイエスが神を以て自ら居るを以て也四十一節に於てイエスハ學者等が遵奉せる舊約書に據りて救主たりし者ハ其誰なるを問ハず神たらざるべからざることを証明せり *Pul. Com* II., p. 170.

葡萄園の持主の息子の身分に關する此譬喩の眞意とキリストの自覺自信に大切なる關係を有す、此息子ハ其父の獨子にして愛せられたる者なりと云ハる此息子ハ其父の代理者として權利を有する者也果して然らバイエスハ神の子として其權威を有することを信認公言するハ固より當然の事なりとす *Bruce, Parabolic Teaching*, p. 457.

(二百七十九)(廿〇十六)人民ハ畏るべき未來の光を微かに認むれども唯認むるのみにて其不正不義の行爲を改むるに至るは感動されず是を以てイエスハ其結果を明言して注意を喚起せし也(十七、十八節)

(二百八十)(廿〇廿五)イエスの此答ハ結果を畏れての遁辭に非ず租税を納むるハ當然の義務なることを明にせしものなり彼ハ革命を起すの企圖なし彼ハ此答に因て羅馬の反對を招くの

危難を免れたりと雖も一般人民の助力を失へり

(引証)イエスは彼を採らざれば此を取らざるべからずイエスは此時凡てのイスラエル人の心に燃へつゝある所の大問題を論理的宗教的に解明せざるべからざりし也イエスは巧に此問題を避けて危く遁れたりと思惟せる者往々之れ有りと雖も之れ甚だ誤てり抑々彼が危く試みられしや事實也一方には神に皈依すべき義務あり然れども國王に對する義務は怠るべからず彼を採れば此を捨てざるべからず斯る難題を以て人を試むるは猶太教師の長所にして其誇る所なりきイエスは國王に從ふの義務は神に對する義務と全く一致するや或は後者の爲に制限せらるゝや直接に之を言はず然れども

兩者に對する義務は決して衝突すべきものにあらずして均しく守らるべきものなることを教示せり而してイエスは此答を以て敵の奸計を打破せり彼等は反逆嫌疑の被告人としてイエスを羅馬の法廷に召喚するを得ざりき、然りと雖もイエスは此答を以て自己を審判したる宣告狀なりと覺悟せり之れ猶太の革命に與せざることを証する最後の決答也之れ救主が政治上の王國を建設せんとの期望を全く水泡に皈せしめたるものにして人民は斯る失望に遇ひて其儘打捨ておく能はざりし也 Weiss, III., pp. 239. 240.

此答は評論の主眼点を轉じて他の方角に向はしめ神に對する義務と人に對する義務との間に截然區別を立て又爭ふ所

なからしめたり、之れ革命黨の謀計を酷評せゞ亦羅馬の味方を辨護せざりし也之れ羅馬の政治が正なりや否や恒久なるべきや否やを言いゞ國王に屬すべきい國王に屬さしめ神に屬すべきい神に屬さしむべしと云て暗に萬物を擧て神のものたらざるべからざるを指示せし也 *Edersheim*, p. 396. (472.)

(二百八十二)(廿〇卅七)イエスの此答い彼が舊約書に通ずるの如何に深遠斬新なるかを証す、

(引証)按ずるに之れ福音歷史に於て我儕の主がサドカイ人と直接の衝突を來せし一例也全体より評せんにイエスい彼等特有の誤謬を直接に批難攻擊したるもパリサイ人に對して言ひし程嚴酷ならざりき *Plumptre*, p. 332.

(二百八十三)(廿〇四十一―四十四)イエスい (一)單に人間たるキリストを待ち望める人々の愚なると (二)自己を以て人間以上なりと公言するの道理あるとを云へり

(引証)茲にイエスが彼等に示したる教理い彼等が學べる聖經舊約書)に教ふる所のもの也然れども之れ我儕の主の時代に於ける猶太人の教理にいあらざりき中畧彼等い其救主として單に「愛子」を望みし也 *Pulpit Commentary* II., p. 170.

此問題を解明さんにい左の事實に據らざるべからず即ちメシア(救主)いダビデの裔なるが故に特殊の威嚴を有するに非ず救拯の大業を完成するに欠くべからざる無二の威嚴を備ふるい偏に神の撰擇に因るものにして其ダビデの裔に出で

しと要するに神の意思なり中略ダビデの裔として政治上より觀察を下さゞ彼がダビデの王位に登るとゝ其職を完ふするに欠くべからざる要件たり然れども彼ゝ單にダビデの系統に屬するに過ぎずして固より王位を望む者に非るを知らゞ興望の如く彼が其祖先の王位に就くと就かざるとゝ其最大目的を達するに何等の關係を保たざるや明か也 Weiss, III, p. 207.

(二百八十四)(廿〇四十六、四十七)此敎戒ゝ馬太傳廿三章に於て一層長く精く錄さるイエスゝ議論より轉じて烈しくパリサイ人及び學者を批難攻擊せり

(引証)イエスゝ終に一歩を進めて攻擊の地に立てり而して彼等の無學愚妄を衆人の前に曝らし以て反省を促したり、イエスゝ彼等を沈默せしめたる時に於て攻擊の怒濤を起して馬太傳廿三章に錄されたる批難を彼等の頭上に加へたり、彼ゝ人生を批評して彼等の僞善的舉動を嚴責し以て聽衆の目前に之を辱めたるのみならず世界人衆の鑑となしたり嗚呼之れイエスと彼等との最後の辨論なりき Stalker, *Life of Christ*, p. 118.

第三　學課の題目

(一)政治上の位置(二百八十を見よ)　(一)エルサレムに於けるカイザルの政權を見よ(路廿〇廿一—廿五)　(二)此支配に服從せる者ゝ　(ハ)一般人民　(ロ)パリサイ人　(ハ)ヘロデ黨是なり但し此

支配が如何に服從されしかを學べ　(三)イエスハ此支配に對して如何なる地位に立ちしやを考へよ　(い)キリストを社會上政治上に關係あるものとして國人ハ彼に何を期望せしや　(ろ)此期望について羅馬人の立場如何　(四)此點に視て此質問と答辨の最も大切なることを考へよ(廿三、廿五節)　(五)イエスの答辨を考究せよ(廿五節)而して之れ　(い)遁辭なりしや　(ろ)內心カイザルに降服せしにや、ウを考定せよ　(は)之れ此問題の新解釋也　(六)若しも內心カイザルに降服せしものとせバイエスが茲に定めたる主義を言顯ハすべし而して此主義に對する使徒的教會の位置を見よ(羅十三〇一—五彼前二〇十三—十七使四〇十九)

(二)理論家としてのイエス(此題について最も面白く且益ある議論ハストルカー氏の基督傳に在り、Stalker's *Imago Christi*, Chapt. 15, "Christ as a Controversialist")　(一)路廿〇一—四十七の議論中イエスの採りし主義に注意せよ　(二)其答辨中左の特有の性質に關する例を見出せ　(い)公平　(ろ)單純　(は)大膽　(に)敏捷　(ほ)柔和　(へ)嚴格　(と)機智、(三)左の証據に關して穿鑿せよ　(い)彼が相手を困らせんと欲して遁辭的答辨を爲せしと　(ろ)實際的理論的土臺に基きし議論、(は)廣大なる精神的主義の上に立てる議論、(に)舊約書の心髓及び人の心に徹底せる驚くべき眼光　(四)(い)反對の質問者　(ろ)イエス及び其弟子　(は)人民に關係して是等の議論の目的及び結果を視よ

第四　宗教的教訓

學生宜しく之が宗教的教訓を考ひ且解くべし

課程第四十三、第四十四　未來　（路廿一〇一―卅八）

注意　各課程を學ぶに當り其全節を讀誦して記事の重なる部分を視察するを要す

（一）　材料の考試

左の順序方法ハ常に此課程に必要なるが故に宜しく記臆すべし

（一）一節或ハ一句を讀んで其大体の主意を領する事（二）大切なる字句或ハ難解の字句を考究する事（三）一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の字句を考定し而して後之に因りて其節句に含有する事柄を明晰に言顯ハす事（四）宗教上の教訓を學ぶ事

其一　（廿一〇一―四）

（一）是等の節を讀で其主意を考へよ、「嫠婦の捐輸」

（二）左の語句ハ大切也、（一）"looked up"「目をあげ」其坐し居たる所より、可十二〇四十一を參考せよ　（二）"gifts"「捐輸」之れ貧人の爲にあらずして殿に事ふる爲なり　（三）"all the living"「其持てる所有を盡く」云々「イエス」ハ如何にして之を知りしや

（三）學生之が思想を言顯ハし得ん

（四）吾人が神を信ずる心ハ捐輸の多少に在るに非ず克己誠實以

て神に敬事するの實を顯わす如何に在り

其二　（廿一〇五―十一）

(一)五―廿六の主意わ一にして即ち「未來に關する教訓」是也而して五―十一の主意を「世界動亂の豫望」と云わゞ如何

(二)大切或わ難解の語句わ左の如し　(一)"some"「或人」(五節)可十三〇一を參考せよ　(二)"they asked"「彼等問ふて云ひけるわ」(七節)可十三〇三を參考して人と場所とについて見よ　(三)「七節」二ッの疑問ふついて考へよ　(い)何時乎　(ろ)何の兆乎　(四)"these things"「この事」(七節)　(い)六節に因て觀れば之れ殿の廢絶也　(ろ)然れども可廿四章を參考して「時代の末期」に關する事を見よ　(は)ルカの錄す所わ之に關する全き談論を略せるなり　(五)"he said"「イエスの答わ何に應用さるべきや　(六)"my name"「我名」即ちキリスト　(七)"the time"「時」(八節)何の時乎　(八)"come to pass first"「是等の事の先にあるわ云々」即ち末期の前　(九)"not immediately"「速かあらず」即ち速に起らずして其間久しかるべきと　(十)"nation"「民」或特定の國民を指せるにや

(三)之が思想を左の如く言顯さゞ如何

イエス殿の美麗なるとについて聞きしが其終に全く廢絶すべきを指示して冷評せり彼等此事の來る時と兆とを問ふイエス答へて曰く僞りのキリストわ爾等を惑わさん然れども社會の大動亂、恐るべき混雜わ自然に末期の前に來るべしと

(四)之が宗教的教訓ゝ事物の眞相を達觀するイエスの眼識に在りて存す、彼等ゝ外部の美觀を見、イエスと眞相を看破す抑々此達觀ゝ吾人に取りて何の意味ありや

其三　(廿一〇十二—十九)

(一)學生是等の節を讀で其主意を言顯ゝせ

(二)大切なる語句ゝ左の如し、(一) "before, etc." 「此事より先に云々」太廿四〇九を參考して此節と對照せよ　(二) "turn unto you for a testimony" 「此事ゝ爾等の爲に證と變ん」何の証となるや

(ろ)彼等がイエスの爲に証をなし得る事か、使五〇廿九等を參考せよ或ゝ　(は)彼等の誠實が貴き証を証明する事なるか、(三) "not a hair, etc." 「首髮一縷も云々」之れ十六節と撞着せざるか如何に兩立し得るか　(四) "in your patience, etc." 「忍耐びて云々」斯精神の作用により爾等ゝ眞正の生命を得而して高尚なる品性を備ふるを得る也

(三)學生自ら之が思想を言顯ゝし得ん

(四)神に信據して渝らず能く耐へ忍ぶ事により品性を發達して高尚なる域に至らしむるを得るもの也而して之を妨碍する反對の勢力あることを茲に啓示せらる

其四　(廿一〇廿—卅三)

(一)是等の節を讀で其主意を考へよ、「確定せられたる兆及び其結果」

(二)學生左の大切なる語句に就て學ぶべし、(一) "but when, etc."

「……を見なば云々」即ち前の事ゝ遠く隔てる出來事の兆なりき然れども今ゝ切迫の兆來る　(二)"compassed with armies"「軍勢に……の圍まるゝ」太廿四〇十五を參考せよ　(三)"then know, etc."「其亡び近きに在ることを知れ」之れ彼等が七節に於て知らんと欲したるものなり　(四)"things which are written"「錄されたる事」何處乎　(五)"until, etc."「までゝ」廿四節)荒廢ゝ他の出來事の起るまでゝ續く筈也　(六)"times of Gentiles"「異邦人の時即ち　(い)異邦人の好時機　(ろ)イスラエルを支配する好時機か或ゝ神の審判を遂ぐる好時機か或ゝ神の救拯に關して彼等自身を益する好時機か　(七)"and there shall be, etc."「異象あるべし云々」之れ　(い)而して異邦人の時至りたる後異象あるべしと云ふの意か或ゝ　(ろ)而してエルサレムが軍勢に圍まれたる時に異象あるべしと云ふの意か　(八)"then shall they see"「其時人々ゝ……見るべし」此恐るべき災害の時の終に於て見らるべき也但し之れ　(い)異邦人の時の完ふせらるゝ事に次で起るべきか或ゝ　(ろ)エルサレムの滅亡に次で起るべきか　(九)"Son of man coming, etc."「人間の子の來るを云々」(い)彼が最後の出現か　(ろ)エルサレムの恐るべき災難ゝ彼が來ることなるか、路九〇廿七、可八〇卅八、同九〇一を參考せよ　(十)"these things begin, etc."「此等の事の成初めん時云々」即ち廿一―廿六の事　(十一)"your redemption"「爾等の贖」即ち　(い)猶太の神學の勢力より贖ゝる事か或ゝ　(ろ)廣い意味にて

世界の勢力より贖れるゝ事か　(十二)"this generation, etc."「此時代云々」(卅二節)若しも「此事みな」とゝキリストの將來の降臨及び約束の完成を含める事を意味するものとせゞ如何に此節を解釋せんか　(い)一説に人間の種族即ちイスラエルの種族ゝ逝かざるべし云々　(ろ)凡て是等の出來事の萌芽ゝイスラエルの此時代に顯れたり故に此事みな完ふせらるべしと云ゝれ得し也　(は)イエス及び其弟子等ゝ此完成が數年中に來らんとを期せり然れども之れ誤てり

(三)是等の節に含有せる事柄を左の如く言顯さゞ如何

爾等エルサレムの圍まゝるを見なゞ末期の來るを知れ急いでエルサレムを出でよ、哀哉弱者ゝ誠に憐むべし其地に大なる災起らん、此世の恐るべき動亂の中に民ゝ殺され捕ゝれん而して異邦人其好時機に達するまでゝ其支配の下に蹂躙さるべし我が榮光を以て來り而して彼等の贖れるゝゝ蓋し此時なり無花果の已に萌せゞ夏はや近しと知る如く此世に起る一切の事ゝ天國の來るとを指示す、廢るべからざるものゝ我言あり

(四)キリストの來るとゝ民の種々の階級に反對の事を意味す其理由如何、内に省みて沈思せゞ蓋し益する所大あらん

其五　(廿一〇卅四―卅六)

(一)此に示せる主意ゝ「最後の諭告」にあらずや

(二)學生宜しく自ら大切なる語句を考究すべし特に　(一)"that

day"「此日」(二)"prevail to escape"「避れ云々」(三)"stand before"「前に立つ等の語句に注意せよ

(三)學生之が思想を言顯ゝし得ん

(四)人間の子の來るに備ふる最良法ゝ常に自己を儆醒して以て不意に備ふる事是也

其六　(廿一〇卅七、卅八)

(一)之を讀で其主意を知れ「エルサレムに於ける働」

(二)(一)"every night he went out"「夜毎に出でゝ」何故乎　(二)"all the people"「民みな」此時多くの聽衆の來集せしことを知れ　(三)"early"「早く」此意味ゝ何ぞや

(三)イエス日々夥多の民の前に立て敎へり朝ゝ早く殿に行き夜ゝ橄欖山に宿りぬ

(四)學生之が宗敎的敎訓を言顯し得ん

(二)　材料の類別

第一　本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含有せる事柄、左の表を善く暗誦すべし

未來

(一)嫠婦の捐輸

(二)(い)世界動亂の豫望

(ろ)個人の試みらるゝ時の來る事

(三)(は)確定せられたる兆及び其結果

(四)(に)最後の諭告

(六)エルサレムに於ける働

(二)總括、學生宜しく注意して本文の總括をなすべし

第二　材料の視察

(二百八十五)(廿一〇三、四)此婦の譽められしゝ神に献げ物をなしたるに因る、貧人に對して慈善を施したるに因るに非ず

(二百八十六)(廿一〇五—卅六)ルカの談論ゝ多くの大切なる點に於て馬太、馬可の談論と異れり

(二百八十七)(廿一〇五)此殿ゝ其建築及び裝飾の美なる謂を以て廣く世人の稱讃する所となれり

(二百八十八)(廿一〇八)此出來事の來るについての最初の兆に偽キリストの出現なり

(二百八十九)(廿一〇九)第二の兆ゝ社會上政治上大動亂の起る事なり

(二百九十)(廿一〇十一)第三の兆ゝ物質上の變亂の起る事なり

(二百九十一)(廿一〇十二—十六)第四の兆ゝ信徒の迫害せらるゝ事なり

(二百九十二)(廿一〇廿)ルカゝ太廿四〇十五、可十三〇十四にいへる暗き謎を解明せんとしたるものゝ如し、ルカゝ此出來事の後に其福音書を錄し得しや而して此出來事の後なるが故にイエスに關する此謎らしき預言の眞の意味を斯く明に言顯ゝし得しや

(二百九十三)(廿一〇卅二)此節ゝ全体の談論中重要の點なり之れ

ルカヽイエスの第二の降臨に關する何等の預言に依らずして其談論を立てしとを示せり

(二百九十四)(廿一〇卅七、卅八)ルカヽエルサレムに於けるイエスの働の全体を總括して玆に言顯ヽさんとしたるものゝ如し

第三　學課の題目

(一)イエスの談論、(二百八十六、二百八十八—二百九十三を見よ

(一)此談論を了解するに困難なる事並に　(二)之が二つの重なる解釋を知て而して後此題を詳しく説明すべし

(二)エルサレムの傳道、(二百七十二、二百七十三、二百七十六、二百九十四を見よ)　(一)イエスがエルサレムに入込みし目的を想起せよ　(二)廿一〇卅七、卅八に視て傳道の一般の有様を知れ

(三)有力者の反對、其狀態及び其傳道上に及ぼせる影響　(四)十九〇四十七、四十八、廿〇一、十九、廿六、四十五—四十七、廿一〇卅七、卅八の事實を集合して當時の働ヽ人民に如何なる感化を及ぼしたるや其概要を考定せよ　(五)太廿三〇卅七—同廿四〇一に比較して此傳道の結果に關する結論を見よ　(六)此傳道に於ける出來事の繼續順序を決定せんが爲に可十四〇一、約十二〇一、十二、可十一〇十二、廿の年代上の暗示を熟考せよ

第四　宗教的教訓

此本文と關係ある前の教訓を想起して謹愼の主意を考へよ、

(一)キリストの來ることを念ひて其信徒の生涯に必要なる事、而して其來るヽ　(い)不明　(ろ)不意なり　(二)謹愼の眞の意味　(い)

心配に非ず亦(ろ)絶えず思考するとに非ず(は)用意周到目前の本分を善く守りて品性の完全を圖る事に於て之を見る

課程第四十五、第四十六、「末期に備ふる事」

(路廿二〇一―五十三)

注意　各課程を學ぶに當り其全節を讀誦して記事の重なる部分を視察するを要す

(一)　材料の考試

左の順序方法ハ常に此課程に必要なるが故に宜しく記臆すべし

(一)一節或ハ一句を讀んで其大体の主意を領する事(二)大切なる字句或ハ難解の字句を考究する事(三)一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の字句を考定し而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯ハす事(四)宗教上の教訓を學ぶ事

其一　(廿二〇一―六)

(一)之を讀で其主意を臆へよ、「謀計及び反逆人」是也

(二)左の語ハ大切なり、(一)"which is called, etc."「逾越」と稱へられたる云々「此福音が書送られたる人々を知るを足る(二)"Satan entered"「サタン……入りぬ」約六〇七十同十三〇廿七を參考せよ　(三)"captains"「長等」即ち殿司の長也使四〇一を參考せよ　(四)"were glad"「喜びて」可十四〇二の理由ありて喜べる也

(三)之を省約して其思想を言顯さゞ左の如けん
逾越節近づきければ祭司の長學者等窃かゐイエスを除かん
とを密議せり時にサタン十二使徒の一人なるユダに入りて
イエスを付さしむユダ乃ち殿司等の許に往き報酬を定めて
イエスを付さんとを約し其機會を窺へり
(四)惡魔ゝ最も善く且つ最も純粹なる仲間にも入込むを得るも
其勢力を逞ふするを得ず

其二　(廿二〇七—廿三)

(一)是等の節を讀で其主意を考へよ　「最後の晩餐」
(二)左の語句に注目せよ、(一)"day of unleavened bread"「除酵節の
日」即ち初日十四日也、出十二〇十八利廿三〇五、六を參考せよ

(三)「十三、十四節」路十九〇卅ゐついて爲したる讀者自身の判
斷と比較せよ　(三)"follow him, etc."「之に隨ひて云々」此奇妙
なる手續について其理由を考へよ　(四)"guest-chamber"「客房」
可十四〇十四を參考せよ　(五)"with desire have I, etc."「熱心
に望む所也云々」即ち「熱心に願ふ」(希伯來の語法)(六)"I will not
eat it until, etc."「之を神の政に成ぐるまでゝ復之を食せじ」イ
エスゝ彼等と共に之を食せしや　(七)"but behold, etc."「然ど
看よ云々」ユダゝ彼等と俱に食せしや　(八)"woe unto, etc."「禍
なる哉云々」茲に　(い)矜恤の情ありや　(ろ)ユダをして其奸計
を思ひ止まらしめんと欲せられしゐや
(三)左ゐ省約して言ふ所を見よ

イエス其撰定したる場所に於て逾越節用意せられたりしかば十二使徒と偕ゐ坐ゐ就き彼等と之を偕ゐするの喜悦を熱心ゐ述べ而してパンをとり謝して裂き之を彼等ゐ分與して曰く「此ゝ爾曹に予ふる我体也」と又杯をとりて曰ひけるゝ「此杯ゝ爾等の爲に流す我血にして立る所の新約也我ゝ此に在る一人に賣られて死すべければ也」と彼等愕然たり

(四)學生宜しく本文の宗教的教訓を學ぶべし

其三　(廿二〇廿四—卅八)

(一)之が主意ゝ「食事間の談話」是也

(二)(一)"contention, etc."「爭ふと起れり」此時斯る評論をなすゐ至りたる原因ゝ何ぞや　(二)"he said"「イエス彼等に曰ひけるゝ」(廿五節)イエスが此語を發せられし前に爲されたる事について約十三章を參考せよ　(三)"but, etc."「然れど(此語和譯にゝなし)我が患難ゐ於て云々」(廿八節)即ち「爾等ゝ今斯く名利的思想を懷くと雖も我ゝ爾等が忠誠なるを知る」の意を含む、(四)"sit on thrones, etc."「位に坐して云々」譬喩乎實際乎　(五)"you"「爾等」(卅一節)之れ複數也即ち此に居る爾等凡て弟子たる者　(六)"thee"「爾」(卅二節)彼等の中の代表者且指導者として、(七)"turned"「皈らん時」即ち神に皈へる事、(八)「卅六節」之れ實際乎譬喩乎　(九)"for, etc."「……成げらるべければ也」即ち我ゝ大罪人として苦痛を受くるが故に我に從へる爾等ゝ此等の準備を爲すを要すとの意を含む　(十)"enough"「足れり」(卅八

節斯く言いれたる精神如何

(三)學生本文の思想を簡明に言顯いせ

(四)人を役するとを念いずして人に役せらるゝとを念いざるべからず基督信者の理想い正に此に在るべし

其四　(廿二〇卅九—四十六)

(一)學生本文を讀で其主意を言へ

(二)考究すべき語い左の如し、(一) "as his custom was." 「イエス」例の如く」廿一〇卅七を參考せよ　(二) "the place" 「其處に」(四十節)何處平　(三) "prayed" 「いのり曰ひけるい」即ち祈りつゝ可十四〇卅五、卅九を參考せよ　(四) "remove" 「離ち給へ」此意味如何

(五) "cup" 「杯」即ち「苦痛の運命」詩廿三〇五、同七十五〇八、賽五十一〇十七等を參考せよ　(六) "sleeping for sorrow" 「憂に因て寢れるを」可十四〇卅七、卅八を參考せよ

(三)之が思想い左の如し

イエス弟子と共に橄欖山に往きて誘惑に入らざるやう祈れと彼等に告げ少しく離れて自ら祈りつゝ父よ聖旨に肯いぶ來らんとする苦痛を免れさせ給へといへり其時天使現れて大に力を添へぬ祈り終りて寢れる弟子の許に來り起て誘惑に入らざるやう祈れと再び命せられたり

(四)本文に明にせられたる祈禱の精神と勢力とについて考へよ

其五　(廿二〇四十七—五十三)

(一)之が主意い「イエスの拘引」

(二)學生便宜の書の補助に籍りて左の語句を考究せよ、(一)"to kiss"「接吻せんと」(二)"Jesus said, etc."「イエス曰ひけるゝ云々」此問の精神意志如何　(三)"certain one"「其中の一人」(四)"suffer ye thus far"「之を聽せと曰ひ」(五十一節)　(五)"your hour"「爾等の時」(六)"power of darkness"「黑暗の勢」

(三)本文の思想を斯く言ゝ如何

ユダ衆人と共に來りてイエスに接吻せんと近よりければイエス之に對ひて「爾接吻を以て我を賣らんとするか」と曰へり、イエスの友抵抗を試み一人之が爲に傷けり然れどもイエスゝ之を醫せり而して衆人の領袖に謂て曰く爾等の爲す所ゝ恰も强盜に當るが如し我日々に爾等と偕に殿に在りし時爾等我を捕へざりき然れども今ゝ爾等の時なり暗黑の時也

(四)學生之が宗教的思想を考定せよ

(二)　材料の類別

第一　本文に含有せる事柄、左の表を熟誦すべし

(一)本文に含有せる事柄及び總括

(一)謀計及び反逆人
末期に備ふる事

(二)最後の晩餐

(三)食事間の談話

(四)イエスの祈禱

(五)イエスの拘引

(二)總括、學生能く本文の總括を爲し得ん

第二　材料の視察

(二百九十五(廿二〇一)此說明に因て考ふるに此物語ハユダ人にあらざる人々の爲に書かれたるものなることを暗示す

(二百九十六)(廿二〇三―六)記者ハユダの精神を認めて已に業に害心ありとなせり金錢上の問題ハ第二におきしものゝ如しが如し

(二百九十七)(廿二〇十)イエス及び弟子ハ此時に都下を去りたるイエスを繞へる危難を示し併せて適當の時期來らざれば捕へられざることについてイエスの注意を表示す

(二百九十八)(廿二〇十―十二)此特別の指命と其稀有の性質とハ

(二百九十九)(廿二〇十四―廿三)最後の晩餐についてのルカの物語を馬太の物語と比較し見よ而して馬可の物語ハ順序材料に於て甚だ異れる所あり

(三百)(廿二〇十七)逾越節の或點ハイエスが此新禮式を立てし前に在て守られたりき

(三百一)(廿二〇十九、廿)之れイエスの死の意味についてイエス自身の最も明かなる敎訓也而して之れ譬喩的なり

(三百二)(廿二〇廿一)ユダの姦惡にして冷かなる心腸ハ比有樣を目擊しつゝイエス及び弟子と偕に平然として在りしとに因て見らる彼ハ實に機會を窺ひおりし也(廿二〇六)

(三百三)(廿二〇廿四)此爭ハ疑もなく彼等の救主に於ける期望が

今將に完ふせられんとするが如く見ゆるに因て起りしか或い食卓の坐位を定むることについて起りしか二者其一たらずんべあらず

(三百四)(廿二〇四十一—四十六)イエスい此時人間と密接の關係を有せり彼い苦み誘いれ祈り而して人の同情同感を求めり

(三百五)(廿二〇四十三、四十四)此兩節の信據すべきや否やに就て疑を懷く者あり

(三百六)(廿二〇廿一、廿二、四十八)イエスい此最後の時に及んで尚論告と柔和なる批難とを以てユダを其本心に立復へらしめんとせらる

(三百七)(廿二〇五十二、五十三)用ゐられたる兵力いイエスが彼等有力者の心に吹込みし恐怖を証す

第三　學課の題目

(一)逾越節と新禮式(三百九十九—三百一)を見よ

(一)原始の禮式なる逾越節を想起せよ(出十二〇一—卅六)而して其意味を知れ　(い)記念　(ろ)犧牲　(は)家族の筵　(に)充分の喜悅　(二)此逾越節がイエスの立てし新禮式に於ける關係を考へよ　(い)逾越節の何の點が此新禮式に導き込まれしや

(ろ)逾越節の意味に視て此禮式の意味如何　(三)此新禮式について　(い)其うちにイエスの品性の反映　(ろ)其うちに譬喩的教訓に關するイエスの方法の反映　(は)永久彼の記念　(に)其說教に於ける恒久の証據　(ほ)慈惠と友誼の方法等を視よ

(二)イスカリオテのユダ(二百九十六、三百二、三百六を視よ)

(一)左の數節に與へられたるユダに關する事實を拾集せよ、可三〇十九、約十三〇廿九、同六〇七十、七十一同十二〇五、六可十四〇十、十一、約十三〇廿六、廿七同十八〇二、路廿二〇四十七、四十八、太廿七〇三—五、使一〇十六、十七、(二)路六〇十六に視て何故にイエスハ彼に近づきしかを考へよ　(い)識らずしてか(ろ)望んでか　(は)偶然にか(約十三〇十八)(三)何故に彼ハイエスに從ひしや　(い)單に私慾の目的を以てか　(ろ)純粹の皈依心を以てか或ハ　(は)兩者混合の意志を以てか　(四)彼が背反の原因を穿鑿せよ　(い)單に猶太の一弟子たる事　(ろ)私慾を挑發する所の彼の職　(は)彼ハ自己の內心をイエスに看破されしを識れる事、其背反ハ是等の事實と何等の關係ありや善く考究せよ　(五)彼が賣節の行爲について其原因を考へよ

(い)貪慾(約十二〇六)　(ろ)失望(可九〇卅四—卅七)　(は)怨恨、復讎(路廿二〇四十七、四十八)之が原因ハ是等の一か數者か善く考へよ　(六)彼の悔悟ハ如何に說明さるべきや(太廿七〇三—五)

(七)ユダの性質の大要を總括して言顯ハせ　(い)其善良なる点　(ろ)其最惡の缺点　(八)ユダの性質ハ　(い)其要素に於て例外なるか　(ろ)其特別の事情に於て例外なるか

第四　宗教的教訓

「弟子に對するイエスの關係」を本文の宗教的教訓の主意とせん

(一)イエスハ彼等の和合親睦を喜び其相互に同情同感あらんこ

とを求めらる、廿二〇十五、四十五、(太廿六〇四十、四十三を參考せよ)(二)イエスハ自己を賣りたる者をも棄てずして尙本心に復へらしめんと欲せらる(廿二〇廿一、廿二、四十八)(三)イエスハ彼等の爲に一身を死に陷る(廿二〇十九、廿)(四)イエスハ惠豊かに彼等の忠誠に報いんとを約せらる(廿二〇廿九、卅)(五)イエスハ誘惑の時彼等の爲に祈らる(廿二〇卅二)(六)他に學ぶべき点を擧げよ而してイエスの此立場に對する吾人の責任ハ何ぞや

課程第四十七、第四十八　「イエスの審問、磔刑」

(路廿二〇五十四—廿三〇四十九)

注意　各課程を學ぶに當り其全節を讀誦して記事の重なる部分を視察するを要す

(一)　材料の考試

左の順序方法ハ常に此課程に必要なるが故に宜しく記憶すべし

(一)一節或ハ一句を讀んで其大体の主意を領する事(二)大切なる字句或ハ難解の字句を考究する事(三)一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の字句を考定して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯ハす事(四)宗教上の教訓を學ぶ事

其一　(廿二〇五十四—六十二)

(一)學生是等の節を讀で其主意を言顯ハせ

(二)大切なる語句ハ左の如し、(一)"high priest's"「祭司の長の」
(い)太廿六〇五十七を參考せよ　(ろ)亦約十八〇十三、十五、十六
に錄せるとを聽へよ　(は)多分二人一家を共有せしならん歟
(二)"court"「中庭」(五十五節)東洋の建物の構造を知るに足らん
歟　(三)"maid seeing him"「或婢彼が火の照す所に坐せるを見」
(五十六節)約十八〇十七を參考せよ而して其同一の事につい
て言へるや否を考定せよ　(四)"also"「此人も亦」(五十六節)即ち
或他の人の如く此人も亦の意、此人とハ誰乎　(五)"another"
「他の人」(五十八節)太廿六〇七十一、約十八〇廿五を參考せよ
(六)"another confidently affirmed"「他かの人、力言けるハ」(五十九
節)約十八〇廿六を參考せよ　(七)"Lord"「主」(六十一節)此福音
の日記に關して何等の意味ありや　(八)"turned and looked"
「振返りて……を見たり」(い)ルカのみ斯く書せり　(ろ)イエ
スハ家より公判廷へ赴かれしが故に、(九)"wept bitterly"「痛
く哭けり」(六十二節)即ち「聲を放て哭けり」或ハ「號泣せり」要する
に精神に苦痛を感じて也
(三)學生之が思想を言顯ハし得ん
(四)貴き感觸力を有する人と雖も若しも堅實なる品性に導かる
ゝに非れば危き位置に陷るを免れず

其二　(廿二〇六十三―七十一)

(一)本文を讀で其主意を考へよ、「イエスユダヤ人の前に立つ」
(二)考究すべき語句ハ左の如し　(一)"held"「扼へて」(い即ちイ

エスハ罪せらるべき囚人として護られし也　(ろ)太廿六〇五十九―六十四の狀景後か　(二)"mocked"「嘲弄して」(ハ)嘲弄しつゝ　(ろ)廿六〇六十四に因て見るに罪に定めらるべきものとして彼を目せし也、(三)"prophesy"「預言せよ」彼等ハ預言に就て如何なる觀念を有し居りしや、ろを知れ　(四)"day"「夜明れば」何故に平旦まで猶豫せしや　(五)"assembly, etc."「集り云々」(六十六節)即ちサンヘドリム(猶太の宗教會議)　(六)"council, ect."「議會云々」(い)太廿六〇五十九―六十四を參考せよ　(ろ)太廿七〇一を見よ　(は)是等の數節と路廿二〇六十六―七十一との關係について考定する所あれ　(七)"will not answer."「答へざらん」廿〇一―八を參考せよ　(八)"Son of God"「神の子」之れ彼等が確定せんと要めつゝありし點也、彼ハキリストとして神たるとを自認せしや　(九)"ye say that I am"「爾等が言へる謂ハ我其者なれば也」他の譯語を見よ

(三)學生自ら之が思想を言へ

(四)本文の宗教的教訓ハ學生の撰擇に任す

其三　(廿三〇一―七)

(一)之が主意ハ「ピラトの前に告訴す」と云ハゞ如何

(二)(一)"before pilate"「ピラトに」之が意味ハ何ぞや　(二)"perverting"「惑ハし」即ち姦詐の目的を以て誑かす　(三)"forbidding etc."「禁じ云々」之れ此告訴の重なる理由か　(四)"asked him"「イエスに問ふて」約十八〇卅三―卅八を參考せよ　(五)"multitudes"

「大衆輿論」がイエスに反對して起る最初の暗示　(六)"himself also"「ヘロデも云々」(七節)ピラトと同じく　(ろ)其處(エルサレム)ピラト及びヘロデの常住の場所なりしや

(三)學生本文の思想を總括して簡明に言顯すことを得ん

(四)此に宗教の教訓として視るべき凡ゆる人の正當なる自信も惡魔の教唆に襲われて迷夢のうちに入るを免れざると是也

其四　(廿三〇八—十二)

(一)之が主意は「イエス、ヘロデの前に送らる」是也

(一)左の語句を考究すべし、(一)"exceedingly glad""甚だ喜べり"其喜悅の精神は表面に現われしや　(二)"answered him nothing"「イエス何をも答へざりき」何故乎　(三)"mocked him""嘲弄して輕蔑か或は恐怒か　(四)"sent him back""復ピラトに返せり"何の理由によりてか、(五)"at enmity""相限み居りしが"(十二節)何の譯ありて仇たりしやを得ん

(三)學生之が思想を言顯はし得ん

(四)初めは善き方角に向へる品性が一轉遂に墮落して惡しくなりたる實例を此に視よ

其五　(廿三〇十三—廿五)

(一)本文の主意を一言に「ピラトの審判」と云へば如何

(二)(一)"Pilate called together""ピラト……を呼集めて即ち議式的會合を招集せしや　(二)"chastise""懲しめて"(十六節)何故か　(三)"Barabbas""バラバ"太廿七〇十六、約十八〇四十を參考

せよ　(四)"gave sentence"「宣告たり」(廿四節)約十九〇十三を參考せよ　(五)"asked for"「求へる」(廿五節)本來ハ求ふことを止めざる也

(三)學生之が思想を簡明に言顯ハし得ん

(四)一人にせよ團体にせよ一旦惡しき感化力に動さるゝや殆んど停止する所を知らずして終に大惡の窟穴に陷ることを考へよ

其六　(廿三〇廿六—四十三)

(一)本文を讀め即ち其主意の「磔刑」なるを知る

(二)大切或ハ難解の語句ハ左の如し　(一)"Simon of Cyrene"「クレネのシモン」可十五〇廿一を參考せよ、此人を撰みたる意如何

(二)"blessed, etc"「福なり云々」(廿九節)最も重き呪詛ハ最も大なる幸福とかハらん、(三)「卅一節」(イ)若しも無辜の人尙斯く苦まねばならずとせば罪人ハ如何にせらるべきやの意　(ロ)今、自身に對するロマ人の立場と後に其國人に對する自己の立場とを比較していへる也　(四)"forgive them"「彼等を赦し給へ」彼等とハ誰乎　(五)"hath done nothing amiss"「過誤も行さゝりし也」(四十一節)彼ハ如何にして之を知りしや　(六)"comest in thy kingdom"「爾、爾の政に來らん時」此意味を知れ、(七)"paradise"「樂園」意味如何

(三)學生本文を省約して其思想を言顯し得ん

(四)之が宗教的教訓ハ悔改めたる盜賊の祈禱にイエス直に應じ

給ひしと也

其七　（廿三〇四十四—四十九）

（一）學生之を讀で其主意を見よ

（二）（一）"Sixth hour"「六時ごろ」（四十四節）（二）"darkness"「黑暗」之れ（い）超自然的か（ろ）而して次で起りし地震（太廿七〇五十一）と關連せしか（は）何を敎示せん爲めか（三）"whole land"「遍く地」即ち（い）其地方か或い（ろ）世界の半面か（四）"veil, etc."「幔云々」（四十五節）（い）形質上の事と（太廿七〇五十一）（ろ）超自然上の事とを臆へよ（は）而して其意味、——イエスの死に因て神が殿を去り給ひし事と神に妨げられずに近寄るを得る事とを臆へよ（五）"glorified God"「神を崇め」（四十七節）之れドレ丈けの意味を含めるや（六）"stood afar off"「遠く立ち」（四十九節）約十九〇廿五を參考せよ

（三）學生之が思想を言顯し得ん

（四）學生之が宗敎的大敎訓を撰出するを得ん

（二）材料の類別

第一　本文に含有せる事柄及び總括

（一）本文に含有せる事柄、善く之を知るべし

イエスの審問及び磔刑

（一）ペテロの不承認

（二）イエス、ユダヤ人の前に立つ

（三）ピラトの前に告訴す

(四)イエスヘロデの前に送らる
(五)ピラトの審判
(六)磔刑
(七)イエスの死

(二)總括、學生宜しく注意して之を爲すべし

第二　材料の視察

左の節に就て視察をなせ

(一)廿二〇五十五、(二)廿二〇六十一、(三)廿二〇五十六—六十、(四)廿二〇六十六、(五)廿二〇六十九、(六)廿三〇四、十四、廿三、廿四、(七)廿三〇八、九、(八)廿三〇十三、(九)廿三〇廿七、(十)廿三〇廿八—卅一、(十一)廿三〇卅三、(十二)廿三〇卅五、(十三)廿三〇卅八、(十四)廿三〇四十三、(十五)廿三〇四十四、四十五、(十六)廿三〇四十六

第三　學課の題目

(一)イエス、キリスト、(一)イエスが路廿二〇六十九、七十に於てなしたる明亮なる言顯を視よ(太廿六〇六十三、六十四、可十四〇六十一、六十二を參考せよ)(二)之が言顯を分析して彼が左の資格あるを以て自ら許せるを發見せよ　(い)キリストたる事(ろ)神の子たる事　(は)人の子たる事　(に)神の威嚴と權能を有する事、(三)是等の語い彼を審く者等によりて如何に了解されしや、路廿二〇七十一(可十四〇六十三、六十四、約十〇卅三を參考せよ)(四)種々の事情に視て彼が此資格あるを以て自ら

許せるとの意味及び彼が外見の失錯と死の預望

(二)議會　(一)サンヘドリムと名けられたる此の議會(路廿二〇六十六の組織、權力の或者について學べ、(二)イエスが彼等の前に二度引出されしことを見よ(約十八〇十三にいへる事の後)可十四〇五十五、同十五〇一、路廿二〇六十六を參考せよ　(三)之に因て其行爲に視てサンヘドリムの評議ゝ果して正當にして合法なりしや或ゝ不整頓、不合法なりしや、ゝを考定せよ

(三)公衆の判斷、(一)路廿三〇四にいへる「衆人」を組織せる人々について考へよ(廿三〇十三、十八を參考せよ)之れ公衆の感情を代表せるものか或ゝ然らざるか　(二)彼等ゝ不意の刺激につかまれたりといひ或ゝ詐りの代表に欺かれたりといふゝ事

實なりや、(三)彼等の宣言を見よ、太廿七〇廿五　(四)イエスの人望に關して此福音書に充てる感觸を想起せよ　(五)(い)人民全体がイエスを排斥したるか或ゝ　(ろ)政治社會の領袖の一派がイエスに反對して一撰を煽動したるか、ゝを考定せよ

(四)イエスの死の意味　(一)自己の死についてのイエスの預言を想起せよ路九〇廿二、四十四、同十三〇卅二、卅三、同十八〇卅一—卅三　(二)死の目的意味に關するイエスの暗示を臆へよ路九〇廿三、廿四、可十〇四十五、路廿二〇十九、廿、約六〇五十一、同十二〇卅二、卅三等　(三)使徒の教訓を鑿穿せよ、彼前一〇十九、多二〇十四、提前二〇六哥後五〇十五、加三〇十三、約壹一〇七、

(四)イエスの代死(贖罪)の事實を確かに認め而して之を説明せ

んとする理論に注目せよ　(い)其死に因て勵まされたる道德上の勢力　(ろ)イエスの死に因て神ゝ道德王たるの品性を明にせり、蓋し其獨子を世に降して罪人に代りて罰を受けしめられたる程也　(は)罪人に代りてイエスの死したるとに因て神ゝ其正義の品性を完ふし而して人と調和せらるゝに至りし也、蓋し其御子イエス、キリストゝ律法に從て罰を受けられたれゞ也

第四　宗教的教訓

學生宜しく自ら之が宗教的教訓の大主意即ち此物語の狀景及び小主意を包含せるものを撰定すべし、先づ左の題について見よ　(一)ペテロ、ピラト、ヘロデ等各個について言顯されたる品性の摸型、(二)此最後の瞬間の景狀に立てるイエス即ち　(い)其眞勇　(ろ)寛宥　(は)慈悲等、及び吾人に及べる其精神的感化、是等の題について一つ宛精細に考究せよ且他に見出す事あらゞ是亦善く學ぶべし

課程第四十九、第五十　埋葬復生及び昇天

(路廿三〇五十—同廿四〇五十三)

注意　各課程を學ぶに當り其全節を讀誦して記事の重なる部分を視察するを要す

(一)　材料の考試

左の順序方法ゝ常に此課程に必要なるが故に宜しく記憶すべし

(二)一節或ハ一句を讀んで其大体の主意を領する事(二)大切なる宇句或ハ難解の宇句を考究する事(三)一節或ハ一句の主意を解釋し大切或ハ難解の宇句を考定し而して後之に因りて其節句に含有せる事柄を明晰に言顯ハす事(四)宗教上の教訓を學ぶ事

其一　(廿三〇五十一―五十六)

(一)之を讀で其主意を臆へよ「イエスの埋葬」

(二)大切の語句中特に左の語句について學べ、(一)"councillor"「議員」即ちサンヘドリムの會員、(二)"had not consented"「肯ハざりき」彼ハ異議を唱へしや　(三)"city of the Jews"「ユダヤのアリマタヤの邑」特に之をいひしハ何故ぞや　(四)"was looking, etc."「神の政を望める者なり」必ずしもイエスの弟子たることを意味せず約十九〇卅八を比較し見よ　(五)"tomb etc."「石の巖たる墓云々」之れ次に解明せる二句の意味か　(六)"preparation, etc."「備節日」何に備へるにや　(七)"prepared spices, etc."「香物と香膏を備へて云々」何の意志にてか　(八)"on the Sabbath they rested, etc."「誡に從ひ安息日を休めり云々」ルカのみ斯く書す何故か

(三)本文の思想ハ學生の言ふ所に任す

(四)イエスの死ハヨセフをして之に奉事せんとするの決心を公然なさしめたりヨセフの品性ハ此大事の時に証せられき

其二　(廿四〇一―十二)

(一)之が主意ハ「イエスの復生」也

(二)特に興味ある語句ゝ左の如し、(一)"the stone"「石」(二節)太廿七○七十を參照せよ、(二)"entered in and found not"「入りしに主の屍を見ず」此意味如何　(三)"two men stood"「二人傍に立てり」可十六○五と比較して説明せよ　(四)"he spake unto you etc."「彼ガリラヤに居りし時如何に爾等に語りしか云々」此事ゝ何時ありしや　(五)"all the rest"「其他の者何人を指せるにや

(六)"Mary, the mother of James"「ヤコブの母なるマリア」可十五○四十を參照せよ　(七)"they disbelieved"「使徒ろの言を虚誕と意ひて」何故に此事を錄せしや　(八)"but Peter, etc."「ペテロ起て云々」イエスの最後の現出を想起せよ　(九)"cloths by themselves"「かたよせたる布云々」之れ何を意味せるにや

(三)學生宜しく本文を省約して簡明に言顯ゝすべし

(四)其主を尋ねて斯くまで努めつゝありし彼等ゝ如何にしてイエスの復生を初めて知覺するを得るに至りしや

其三　(廿四○十三—卅五)

(一)學生宜しく本文を讀で其主意を言顯ゝすべし

(二)左の數點について特に考究せよ、(一)"two of them"「二人の弟子」之れ使徒に非ず弟子なり　(二)"questioned"「語り質ぬる時」彼等ゝ恰も或説明に就て一致し能ゝざりしかの如くに　(三)"Jesus drew near, etc."「イエス自ら近きて云々」イエスゝ何故に稍劣りたる是等の弟子を求めしや　(四)"were holden"「おほはれて」(い)之れ彼等の思考に固結しおりたるが故にや或ゝ(ろ)

超自然の事なるが故にや　(五)"named Cleopas"「クレヨパと云へる」之れルカの報告者の何人なりしやを知らしむるに足らざらんや　(六)"a prophet"「預言者」如何に此概念を説明さんか　(七)"chief priests"「祭司の長」彼等がイエスの死の源因を何に帰せしやを臆へよ　(八)"hoped"「望みたり」之に因て此時イエスの弟子等の一般の感情に就て何を知り得るや　(九)"slow of heart to believe"「信ずる心の遲き云々」意味如何　(十)"and to enter, etc."「受て其榮光に入るの必要ありしに非ずや」即ち受け如斯ゐして其榮光ゐ入るべきゐ非ずや　(十一)"he made as though, etc."「ゆき過んとする狀をなせば」即ち彼等を試みんとて也　(十二)"eyes were opened, etc."「目瞭かになりて云々」超自然か　(十三)"to Simon"「シモンに」此意味如何　(三)本文の言顯れ學生之を爲すべし　(四)弟子の困難に對するイエスの同情及び其之に處する熟練なる方法に就て考察せば興味甚だ多からん

其四　(廿四〇卅六―四十三)

(一)左に言へる主意に就て考へよ「弟子の仲間にイエスの現れし事」

(二)(一)"as they spake"「語れる時」即ち其日の夕刻　(二)"reasonings"「疑ひ」彼等の心の有樣を知るに足る　(三)"see my hands, etc."「我手……を見て云々」即ち之れ十字架に釘けられたるイエスの手、足なるとを見て、(四)"handle"「摸て見よ」他の証據　(五)

"did eat"「食せり」第三の証據

(三)學生之が思想を言顯ゝすべし

(四)學生之が宗教的教訓を考察せよ

其五、　(廿四〇四十四—四十九)

(一)學生之が主意を言顯ゝせ

(二)大切なる語句ゝ左の如し、(一)"and he said, etc."「また彼等に曰ひけるゝ云々」此時曰ひしや太廿八〇十六を參照せよ　(二)"how that all things, etc."「我事につく凡の言の必らず應べきものなり」何故に此事を彼等に告示せしや　(三)"then opened he, etc."「其心を啓き云々」如何にして之を成せしや　(ハ)超自然によるか或ゝ　(ろ)舊約書を學ぶ仕方に關して屢々會見し且說明したるによるか　(四)"should be preached"「宣傳へらるべし」(ハ)力辭的　(ろ)今何故に宣傳へらるべきや　(は)如何に此事ゝ記錄されたるや　(五)"witnesses"「証人」如何なる意味にて証人なるか　(六)"the promise of my Father"「我父の約束」(ハ)即ち我ゝ我父が譬へし所の聖靈を汝に與ふ　(ろ)何故之が譬へられしや

(三)學生宜しく之を省約して言顯すべし

(四)イエスが舊約聖書に重きをおきしと並に之を學ぶべき吾人の本分に就て考へよ

其六、　(廿四〇五十—五十三)

(一)之を讀で其主意を考へよ「イエスの昇天」

(二)(一)"led them out"「彼等を導き」(い)此同じ時に於てか(ろ)誰々を導きしにや　(二)"he was parted"「彼等を離れ」(三)"into heaven"「天に」(四)"worshiped him"「これを拜して」(五)"great joy"「大なる喜」何故に此時喜びしや　(六)"continually in the temple"「殿に入るを恒とせり」

(三)學生之が思想を言顯わせ

(四)昇天に關する宗教的教訓如何

(二)　材料の類別

第一　本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含有せる事柄、　左の表を熟誦せよ

埋葬、復生及び昇天

(一)イエスの埋葬

(二)イエスの復生

(三)イエスと二人の弟子

(四)弟子の仲間にイエスの現われし事

(五)最後の教訓

(六)イエスの昇天

(二)總括、　學生宜しく能く之を學び而して可及的省約して言顯したる左の概見を批評せよ

議員の一人あれどもイエスの行爲に同情を表せるヨセフと云へる者ピラトの許可を得てイエスの屍を乞ひ受け安息日の前日新らしき石の鑿りたる墓に葬りしときガリラヤより

イエスと偕に來りし婦たち此狀を見たり彼等翌日の安息日に休業して香物等を備へ未明に之を携へて墓に到りしに石轉びて屍あらず其時二人の天使現れて告ぐるに三日目に甦らんといひしイエスの言を以てせり婦人等驚き去りて事の顛末を弟子等に話して信ぜられずペテロ趨りて墓に往き其遇ふ所の事を奇みつゝ皈れり二人の弟子エマヲと云へる村に往く途中互に此等の所遇ども語り論じてイエスの傍に來れるを認めざりきイエス曰く舊約の預言ハ我死に因て遂げられたるとを知らざるかと彼等と止り共に食に就きパンをとり謝して擘き予へけれバ二人の者の目瞭かにありて彼を識り又忽ち其目に見えず爲れり彼等起てエルサレムに皈り他の弟子等に此事を告げしに弟子ハ已にイエスのシモンに現れしとを聞けりとて互に其奇を語り合へる時イエス突然其中に立ちて安心せよ我ハ幽靈に非ずと曰ひて先づ其驚愕を靜め而して彼等をして彼の死復生に就て聖經の証する所を明に了解せしめられたり且曰く爾等上より權を授るまでハエルサレムに留れと彼等を導てベタニヤに至り手を擧て彼等を祝し遂に離れて天に昇れり彼等則ち彼を拜みエルサレムに皈りて神を讃美せり

第二　材料の視察

（三百八）廿三〇五十、五十一）イエスの弟子中には地位高き者もありき

(三百九)(廿三〇五十三、五十六)暗に埋葬の或慣習を示す、Stapfer, *Palestine in the time of Christ*, pp. 165-171 を見よ

(三百十)(廿三〇五十四)(一)此日…單に安息日の爲に備へられたる日ありしや、(二)或い之れ安息日と逾越節との爲の準備なりしや之れ疑問也、約十九〇十四を參照せよ Gardiner, *Harmony* p. 220; *Edersheim*, II., pp. 567, 568 を見よ

(三百十一)(廿三〇五十三—五十五)イエスの死せし事實について い毫も疑あきが如し

(引証)イエスが其埋葬前に死せしとの確實なるとい疑を容れざる也而して之れ其埋葬の方法に因ても亦証明せらるゝ也 *Van O.*, p. 384.

(三百十二)(廿三〇五十六)ルカい是等の香物の携來られしい安息日の已に經過せし後ならんとを暗にいへるものゝ如し

(引証)按ずるに婦人に二組ありしなるべし二人のマリアとヨナを一組とし他の婦人等を一組とす彼等い同じ職務に從事せる也彼等が金曜日の午後或は夕刻に買ひし丈けにてい不充分ありし故に土曜日の夕刻商店の開かるゝを待て香物等を買ふの必要ありしならん *Plumptre*, p. 393.

ルカい之が時期に就て錄さゞるが故に其物語い適當の順序を具へずと斷言するも敢て不當にあらざるべし Bliss, p. 343.

(三百十三)(廿三〇五十五、五十六)是等の婦人い痛く哀み且つ感せり彼等い確にイエスの復生を期せざりし也

(引証)婦人等の備へし香物香膏ハ實にイエスの復生の眞實なることを証する無言の証左たらずんべあらず彼等ハ弟子の一般の觀念の何たるを表示せり Burton, *Gospel of St. Luke*, p. 401.

(三百十四)(廿四〇二)ルカハ前に錄さゞりし不意の出來事に就て茲にいへり

(三百十五)(廿四〇三、四)此婦人等の思ひ期したる事及び其狼狽したる事ハイエスの死の間接の証據にして且復生の事實を証するもの也

(三百十六)(廿四〇十一)使徒等の之を信せざりしハイエスの死及び其復生に就て彼等の思想を顯ハしたるもの也

(三百十七)(廿四〇十二)疑問の存する此節ハヨハネの物語に類すきハ夥多の變化復雜を見る

(引証)首尾照應一見明瞭なる歴史を編纂するハ容易の事に非ず豈獨り此事のみならんや *Bliss*, p. 344. 種々の事實を詳記することに因て疑點ハ漸く明になり恐怖ハ變じて希望と歡喜を生ずるもの也然れべ此記事の如き暗より明に至るの行程ならずとせんや茲に錄せる是等の現象に察するに之れ主イエスの復生の歴史的事實なることを否む所の凡ての理論に對する用意たらずんべあらず固より無益の記事にあらざる也、若しも初より明確の事實として人之を信じあべ斯る入込みたる記錄をなすに及べじ *Riddle*, p. 351. 甲ハ復生に關する事情の

彼點に興味を置き乙ハ之に關する事情の此點に興味を置く記者異れバ隨て觀察も異るハ自然の勢也、セント、マタイもセント、ルカも此物語を收縮して話せしが故に共に時の明瞭を欠けりルカハ復生の証據に關してエルサレムの著しき出來事に重を置きセント、マタイハ之に關してガリラヤの著しき出來事に重を置く *Edershein*, II., 621, 622.

(三百十九)(廿四〇十三—卅五)此物語ハルカのみ之を言へり按ずるに此二人の弟子の一人ハルカの報告者なりしならん

(引証)記事の特殊なる事と廿四章ハエマヲ村に往きし二人中其一人の感動について全く錄せるが如き觀ある事實とハ或者をしてルカハクレヨパの仲間の一人なりてふ說を懷かしむるに至れり然れどもルカハ異教徒なりしならん彼がクレヨパ或ハ其仲間より報告を得たりとハ甚だ信ずべきに似たり *Riddle*. p. 356.

(三百廿)(廿四〇十八)此質問ハ當時エルサレムに於ける人心の動搖を示せり

(三百廿一)(廿四〇卅—卅一)イエスハ主人として働けり而して其懇切なる動作ハ以て彼等に眞理を知らしめしが如し

(引証)パンをとり謝して擘き而して彼等に予へしとハ凡て師匠たる者が其弟子に對して禮儀、優待、友情を表する普通の行爲にてハあらざりき此事ハイエスが使徒等と偕に食せし聖餐の大禮式に酷だ似たり *Pulp. Com.* II., p. 272.

二人の弟子ゝ主の聖晩餐に列せざりしが故に之に就て聞くを得ざりしなり蓋し食事に先ちて神の善美を讃するとゝ寧ろイエスの慣習なりき *Bliss* p, 350,

(三百廿二)(廿四〇十六、卅一、卅七)イエスゝ其未だ死せざりし時と同じ形象を有したりとゝ思はれず(可十六〇十二を參照せよ)

(引証)キリストを認めんと欲して能ゝざりし弟子の失敗について單に自然的解釋を下さんとするゝ徒勞也、彼に見えし彼等ゝ主と精神的に合体調和を爲すに至りしまでゝ見えるとを得ざりし也 Westcott, Quoted in *Pulp, Com*, II., p. 270.

(廿四〇十五、十六に關する引証)彼等ゝ互に難問を解明し而して其心中の疑察を一掃し去らんとて爭ひつゝありし也彼等ゝ之を論ずるに專にして人の傍に近れるにも氣付かざりしならん *Bliss*, p. 348.

彼等がイエスを認めざりしゝ不可思議に似て不可思議に非ず中畧、彼の如き沈毅にして威嚴ある旅人ゝ後年十字架の彼の如く容易に認め得られざりしなるべし *Riddle*, p. 357.

(三百廿三)(廿四〇卅七)恐怖ゝイエスの復生に關して一層信ずべき充分なる証據を得るの機會也

(引証)彼等ゝ目前の現象とイエスと相肖たるとを認めり然れども其同一なることを悟るに至らず一旦死したる者が再び生きて目前に現ゝれたりとゝ念ゝざりし也其見し所のものゝ幽靈なりと思惟せり斯く思惟せしが故に駭き懼れし也 Bruce,

Training, etc p. 492.

(三百廿四)(廿四〇廿五、廿六、四十四)イエスハ其死の避くべからざりしことを証せんとて舊約の預言を引けり

(引証)メシアに關する預言についてイエス及び其使徒の教訓を學ぶ者ハ悟り難き事をも暗に搜索考究するを要せず宜しく主の弟子に注意せし事を記臆すべしイエスハ弟子をして斷片の語句に心を傾けしめんよりハ寧ろ舊約の預表的表徵的性質について其大体の意義に注意せしめられたり *Van O.*, p. 392. 又 394 を參照せよ

(廿四〇四十五に關する引証)イエスハ是時疑もなく又々彼等に現ハれし也 *Riddle*, p. 366.

(三百廿五)(廿四〇五十—五十三)此福音に於てハ昇天の事を力辭的に言ひ而して彼の四十日の出來事に關してハ多く畧する所あり

(引証)ルカハ朝夕此最後の光景に重きを置けり何となれば彼ハ啻に此記事を以て其福音を終りしのみならず亦同一の記事を以て使徒行傳を始むれば也 *Pulp, Com*, p. 275.

ルカが四十日の出來事を略して復生の事を斯くも詳に錄せるハ偶然の事とハ思ハれざる也彼ハ一週の終日に非ずして其初日を安息日とせる異教徒の爲に之に書贈れる也而して彼ハ吾人の爲に主の第一の日を明に畫き示せり *Burton, Gospel of St. Luke*, p. 415.

第三　學課の題目

(一)復生、(三百十一、三百十三、三百十六、三百十八、三百廿一―三百廿四を見よ)(一)復生の事實に關する是等の視察を一層考究して特に左の數点に注目せよ(Weiss' *Life of Christ*, III. pp. 383 seq.)に錄せる明確にして力ある議論を見よ)(ハ)イエスの死と埋葬　(ろ)一週の初日に於て墓に屍を見ざりし事　(は)イエスの死後弟子の氣力衰へし事、一時彼等の信ぜざりし事、及びイエスの復生を悟りたる後勇氣、信仰、精力を增したる事(彼等ゝ主の磔殺について失望したるが故に其復生の事實を信ずるに難かりき斯る人ゝ道理上信ずるを得るの証據を握るに非るより主の復生を信ぜざりしとゝ是非もなき次第也、中略、福音の記者ゝ細心注意して吾人が一點の疑を容れざるやう是等の疑事を記錄したり Bruce, *Training*, etc. pp. 492. 495.　キリストの復生ゝ確に基督教の復興に伴ゝるキリストが變容体に於て死より起ちしが如く基督教亦生氣を恢復したる也、復生の後ゝ一切の肉慾を絶てり、何が此變化を惹起したるか、彼等ゝ云ふ之れ復生なりと中略然れども彼等の証言ゝイエスの甦りし証に非ず、爭ふべからざる証據ゝ變化其者也即ち彼等が勇氣を得て希望を起したる事實是也 Stalker, *Life of Christ*, p. 148.)　(に)彼等が前に信ぜざりし後彼の家族の信ぜし事(此點ゝストルカーの基督傳五十二ページより五十四ページに力強く論せり)　(ほ)セント、パウロの言証、哥前十五〇一―八　(へ)

古の教會の証言　(と)古の教會の精神、(二)以上の考察を　(い)詐欺的理論　(ろ)虚妄的理論　(は)幻想的理論に應用し見よ

(三)(い)福音歴史　(ろ)使徒(Bruce, *Kingdom of God*, p. 305. を見よ)

(は)イエス自身等に關してイエスの復生の意味

(二)年代記(*Plumptre* Excursus, p. 414. を見よ)(三百十を見よ)、(一)イエスが一週の初日即ち日曜日に甦りし事について福音並に傳説の普通の証言を臆へよ、路廿四〇一、太廿八〇一、約廿〇一を參照せよ　(二)此點より　(い)土曜日、路廿三〇五十六　(ろ)金曜日、路廿三〇四十四同廿二〇六十六　(は)木曜日、路廿二〇卅四、十四、七　(に)水曜日可十四〇一—十一、(ほ)火曜日、路廿〇一、三、可十一〇廿、廿七　(へ)月曜日、路十九〇四十五、四十六、可十一〇十二　(と)日曜日、可十一〇十二等の出來事に遡及して考へよ　(三)逾越節は何の日に之れありしやを考定せよ　(い)木曜日と金曜日とか　(ろ)金曜日と土曜日とか

(三)甦りたるイエス(*Riddle*, p. 365. 此題について錄す所あり)(三百廿二を見よ)(一)此時代の間イエスの生活、人物に關して聖經の言顯せる所を學べ、路廿四〇十五、十六、卅、卅一、卅六、卅七、卅九、四十三、可十六〇九、十二、十四、太廿八〇九、十七、約廿〇十五、十七、十九、廿七、同廿一〇四、十三、十五、徒一〇三を參照せよ、(二)徒一〇三に視て此時代が大なる四十日と名けられしことを知れ

(三)能ふべくは以上の數節に視て左の意見につき考定せよ

(い)イエスは其完全なる靈体を以て甦り而して自ら弟子に現

れたり　(ろ)イエスの肉体を以て甦りしが昇天の時霊体と變れり　(は)イエスの其肉体を以て甦り此時の間に漸次幾容せり云々　(に)イエスの其現れし時の肉体をとれり、其甦りし時の榮光ある体の單に天上の生活に適せるものなり、

(四)何故にイエスの稀に現れしか而して弟子のみに現れしか其理由如何　(五)此四十日の時代の或結果を臆へよ　(い)復生の確實なる事　(ろ)ペテロの恢復、約廿一〇十五—十七　(は)來世に關する教訓、徒一〇三—八を參照せよ　(に)新組合の組織、太廿八〇十八—廿

(四)昇天(三百廿五を見よ)　(一)聖書の言顯はせる事を學べ、路廿四〇五十一、可十六〇十九、徒一〇九、(二)亦路九〇五十一、約十四〇二、十二、同十六〇五、廿八、同十七〇十一、同廿〇十七、弗四〇十を比較せよ　(三)復生と昇天との關係を臆へよ

(引証)昇天の復生と別事の奇跡なりしことを証明せんと欲して使徒の言ひし所に據るの無益なり何となれば使徒の昇天と復生との二者を互に離る可らざる關係を有するかの如く常に併稱すれば也、(彼前三〇廿二、弗四〇八—十)イエスが榮光ある体を以て甦りしとの確實なるが如く彼が其体を以て昇天したると亦確實也、中畧、此意味より見ればイエスの肉体が天に昇りしとの勿論復生したれば也、復生なければ昇天なく昇天なければ復生なき也　Weiss, III. p. 409.　(四)(一)、(二)、(三)に言へると昇天についての異説との關係　(五)何故に直接の言

顯が馬太及び約翰の書に與へられざるか其理由　(六)昇天の意味　(い)イエスの生涯に於て其自然なる事　(ろ)其榮光ある位置に高めらるゝ手段として　(は)天の方位との關係(引証)キリストが昇天に因て啓示されたる變化ハ場所の變化に非ずして有樣の變化なりき方位的に非ずして靈性的なりき West-cott, *Gospel of the Resurrection.*

(四)教會並に一個人たる信者の生活に於て、可十六〇廿、約十六〇

七

第四　宗教的教訓

宗教的教訓として大切なる點ハ「復生の福音」是也、(一)イエスの復生と信者の個人的生活との關係　(い)神に受容れらるとの保証、羅四〇廿四、廿五、同八〇卅四　(ろ)新生活の誘因並に之を得せしむる勢力、哥後五〇十四、十五、羅五〇十、同六〇四、五、西三〇一―四、腓三〇十等　(は)救ハれたる人の確に復生する事、哥前十五〇廿、約六〇卅九、四十、撒前四〇十四、(二)イエスの復生ハ復生の生活と社會に何等の關係を有するや　(い)「吾人ハ其處に於て互に相知らん」(ろ)神にして亦人なるイエス、キリストと完全なる交りを結ぶ事、腓一〇廿三、

課程第五十一、第五十二、「路可福音書のイエス、キリストの生涯及び事業」

(注意)(一)路可福音書の課程を終るに當り以上五十の課程を綿密に再閲して之が福音に通曉せんことを要す

(二)目的ハ大体の概念を得るに在り故に特に不充分なりと思惟せる點の外ハ細目に拘泥して時を費すべからず

(三)全体に通曉して其概念を得るハ各課程の結果を考出確定するに甚だ益あり而して一定の起點に據りて或本文を解釋するに便多しとす、一節一句と雖も全体の材料に渉るとなくして充分に了解せんとするハ難し

(四)是等の課程を再閲するに當りキリストの或小傳を參照するハ利益少からずストルカーの基督傳或ハヴァリングの *Jesus Christ the Divine Man* ハ最も良し、孰れも冊子小なれバ二三時間に讀了するを得、エダルシエームの *Life and Times of Jesus the Messiah* ハ大冊なりと雖も之を省約して出板したるものあり

(五)學生ハ自ら材料に通曉するの欠くべからざる必要を識認して此結果を成就するに要する時間と勤勉とを吝まざるべし

(一)　材料の考試

(一)手に紙と鉛筆を持ち課程自第一至第五十の(尤も課程第十九、第廿ハ畧す)主意を悉く順次に書載すべし

(注意)　之を爲すハ不容易の業なるが如し然れども左の點を記臆せよ　(一)凡ての主意を悉く臚列するも百七十五に過ぎざる事　(二)斯く完全なる表を作るとに因て路可福音書の概念を一見の下に得る事　(三)此表ハ他の方法に因て得る能ハざる知識を得せしむる事　(四)之れ即ち福音書に含有せる事實の目錄なる事　(五)是故に善く注意して粗略ならざるやう忠

實に之を爲すべし

(二)完成したる此目錄を以て路可福音書を通讀すべし

(三)前已に備へられたる表を再び注意して熟讀し而して(一)本文の事柄に視て善く之を記臆し(二)充分心に入らゞ環點を付して記號となし順次斯くして全く讀み了るべし之を記臆の最上法とす

(四)如斯にして表を二度三度重ねて讀むときゝ大に益あり然れども必ずしも然せざるべからさるに非ず

(五)善く之に通曉したる上ゝ心に此福音の材料を定むる方法の撰擇ゝ學生の自由に任す、此研究法ゝ此福音書の大意を領し其本文に含有せる事柄に通曉せりとの確乎たる自信あるまでゝ放棄すべからず

(二) 材料の類別

第一　本文に含有せる事柄及び總括

(一)本文に含有せる事柄、ルカの與へたる通りイエス、キリストの生涯の大体を玆に示す、但し主意を言顯ゝしたる題目の下に章と節とを記入すべし例へゞ、其三先驅者及び其働路三〇一―廿二)の如し

イエス、キリストの生涯

其一　緒言

其二　幼者と青年に關する話

其三　先驅者及び其働

其四　ガリラヤ傳道
（一）緒言
（二）端發
（三）抵抗
（四）活動の盛時
（五）終局

其五　ペレア傳道
（一）初期の舞臺――福音の宣傳及び抵抗
（二）二期の舞臺――批難及び擴張
（三）三期の舞臺――給局

其六　エルサレム傳道
（一）開始
（二）衝突
（三）十二使徒の働
（四）最終

（二）總括、時間を咨まず注意して路可福音書全体の總括をなすべし

第二　學課の題目

左に學課の題目の一部分を示すと雖も學生自ら他の題目を考出すべし、但し主意の意義に關して引証を要す

（一）ルカの福音、（此題目に關して、註釋書の緒言を參照せゞ大に益あらん、例せゞ、*Farrar, Lindsay Plumptre, Pulpit, etc.* 等の註釋書

を良しとす）（一）記者、（最良の典據ハ *Plumptre* の註釋書なり）（二）特殊の性質（此點に於てハ *Farrar* の書を最良とす同氏の著書 *Messag e the Books*, pp, 70—98 に詳細なる面白き記事あり又 *Lindsay* p. 18. を見よ　（ハ）文体　（ろ）含有の事柄　（は）書式　（に）神學（Pulp. Com. Introduction III. "*The Especial Teaching of St. Luke*" を見よ又 Westcott, *Introduction to the Gospels* pp, 372—381. を見よ）（三）目的（*Westcott*, pp, 189—192 を見よ）（四）此福音の書贈られし人々（*Plumptre*, Intro. IV. を見よ）（五）他の福音との關係（*Lindsay*, Intro. p. 16; *Plumptre*, VI. を見よ）

（二）此福音に表示されたるイエス、キリスト（此題目並に其大体の主意に關してハ Henry Burton の著書 *Gospel of St. Luke* に特に注目するを要す、之れ近時の發行にして大要を總括したるものなれバ一讀の價値ありとす）（一）イエスの生涯の大体　（二）イエスの品性　（ハ）幼年時代に顯ハれたる品性　（ろ）誘惑の時に顯ハれたる品性　（は）ガリラヤ傳道に於て顯ハれたる品性　（に）ペレア傳道に於て顯ハれたる品性　（ほ）エルサレム傳道に於て顯ハれたる品性　（へ）最後の光景に顯ハれたる品性、（三）此福音の議論、（ハ）イエスの人性について　（ろ）イエスの神性について　（は）兩者を兼備せることを識認したることについて、（四）此福音書に言顯ハせるイエスの特質

第三　宗教的教訓

路一〇四に立返へりて此福音書の實際の目的を考へよ（此點に

ついて最も有益なるものゝ *Pulpit Commentary, Luke* Vol. I. pp, 27—29 に見出されん（一）（い）智識的（ろ）精神的に此目的が弟子に感得せらるゝの必要（二）此目的ゝ如何にして此福音を書贈られたる弟子に感得せられしや（三）此目的ゝ如何にして現時の弟子に感得せらるべきや（四）此課程を學ぶとに因て吾人の得たる所のものゝ何ぞや

基督の生涯及び時代終

[Copy of Dr. HARPER's Letter.]

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
Founded by JOHN D. ROCKEFELLER
WILLIAM R. HARPER, President

CHICAGO *April 16, 1894.*

Rev. Albert A. Bennett,
Baptist Theological Seminary,
Yokohama, Japan.

My dear Sir,—

I should be glad to have you publish the result of your work in the translation of my Studies on the Life and Times of Christ. I am sure the work will be of great value to those in Japan to whom it will open a door for an inductive study of the Bible in their own tongue. You may, if you wish, publish the fact of my permission in the book. I should be glad to see a copy of it after it is issued.

Yours very truly,

William R. Harper

PRINTED
BY
THE YOKOHAMA SEISHI BUNSHA,
94, OTAMACHI ROKUCHOME

INTRODUCTION.

The translation of these *Inductive Studies* has been made by permission of Dr. Harper. His subjoined letter is of itself sufficient introduction. It may be well to state, however, that at an early stage of our work, it became manifest that a new translation of the Gospel of Luke into Japanese would be well-nigh imperative. Existing translations did not seem to adequately represent the "words and phrases which require special study." Accordingly, permission was obtained from home, for making such translation, and this furnishes the Japanese text herein employed. This is now undergoing final revision and correction for immediate publication, and should be used in connection with other translations in prosecuting these *Studies*. May He who "made of one every nation of men for to dwell on all the face of the earth, having determined their appointed seasons, and the bounds of their habitation; that they should seek God, if haply they might feel after Him and find Him," graciously so bless these translations that those who use them may say, with ever deepening emphasis, "He is not far from each one of us."

A. A. B.

Yokohama, Japan,
May 1895.

明治廿八年五月十五日印刷
明治廿八年五月廿七日發行

譯者兼發行者　ベンジャミン　ブット
横濱山手居留地六十七番館

譯者　久代外治
横濱根岸村三千五百六十四番地

印刷者　村岡平吉
横濱市太田町五丁目八十七番地

印刷所　横濱製紙分社
横濱市太田町六丁目九十四番地

THE

Life and Times of The Christ,

BASED ON LUKE.

BY

President Wm R. HARPER, and Geo. S. GOODSPEED.

TRANSLATED

BY

ALBERT ARNOLD BENNETT AND S. KUSHIRO.

YOKOHAMA:
AMERICAN BAPTIST MISSIONARY UNION.
1895.